

姫路城城下町跡

— 姫路城跡第437次発掘調査報告書 —

2022

姫路市教育委員会

序

姫路城は本市の象徴であるとともに、日本が誇る世界遺産の一つです。江戸時代の初めに池田輝政によって五重六階、地下一階の大天守をはじめとする建造物群が築かれて以来、400年を経た現在もその威容を誇っています。

姫路城下町は、姫山・鷲山を中心に螺旋状に巡らされた三重の堀によって、天守をはじめ城の中核施設が置かれた内曲輪、武家屋敷が立ち並んだ中曲輪、町人地・寺社を中心とした外曲輪に区分されます。このうち内曲輪と中曲輪の大半は世界遺産及び国の特別史跡として登録・指定され、保護・顕彰が図られています。

一方、外曲輪は近代以後、姫路の経済の中心地として発展し、現在も播磨地域の中核都市に相応しいまちづくりが進められています。今回調査を行った本町周辺は、姫路城大天守を正面に望む中ノ門外の外曲輪に位置します。発掘調査では、江戸時代の町屋遺構と江戸時代以前の条里に関連する遺構を確認することができました。ここにその成果を報告し、姫路城城下町跡の調査・研究の進展に資する所存であります。

最後に発掘調査の実施にあたり、多大なご協力を賜りました医療法人五葉会をはじめ、その他関係者各位に心から御礼申し上げます。

令和4年（2022年）3月

姫路市教育委員会

教育長 西田 耕太郎

例 言・凡 例

1. 本書は姫路市本町 230 番の一部、231 番で実施した姫路城城下町跡第 437 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は医療法人五葉会による病院建設工事に先立って実施した。
3. 発掘調査は令和 2 年（2020 年）4 月 20 日から同年 8 月 8 日の期間に、出土品整理作業及び報告書の作成は令和 3 年度に実施した。
4. 発掘調査は医療法人五葉会の委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。
5. 現地調査および出土品整理作業、発掘調査報告書の作成は姫路市教育委員会 生涯学習部 埋蔵文化財センターが担当した。
6. 発掘調査および出土品整理作業、発掘調査報告書の作成・刊行に係る経費は事業者である医療法人五葉会が負担した。
7. 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。
8. 遺構名の表記は、溝（SD）、柱穴（SP）、土坑（SK）、塼列建物（SH）、竈（SL）、不明（SX）とした。
9. 遺構名は検出順に 1 から番号を付し、第 2 面の遺構は検出番号の頭に「2-」を付けている。
10. 発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位は全て座標北である。標高は東京湾平均海水準(T.P)を使用した。
11. 土層注記に用いた色調は『新版 標準土色帳』（1999 年度版）に準拠している。
12. 発掘調査・出土品整理および報告書作成においては、下記の方々・機関より御協力を賜った。深く感謝の意を表します。（敬称略、五十音順）

工藤茂博、城南地区連合自治会、芳賀一也、本町自治会

目 次

第 I 章	調査に至る経緯と経過	1
第 1 節	調査に至る経緯と体制	1
第 2 節	調査の経過	1
第 II 章	調査地周辺の歴史的環境	2
第 III 章	調査の結果	3
第 1 節	調査区の層序	3
第 2 節	第 1 面の遺構と遺物	3
第 3 節	第 2 面の遺構と遺物	13
第 IV 章	総括	29

第 I 章 調査に至る経緯と経過

第 1 節 調査に至る経緯と体制

姫路市本町 230 番の一部、231 番において医療法人五葉会によって病院建設工事が計画された。計画地は周知の埋蔵文化財包蔵地である姫路城城下町跡（兵庫県遺跡番号：020169）に該当している。

事業者より平成 31 年（2019 年）4 月 23 日付けで文化財保護法第 93 条に基づく届出があった。届出の内容に基づき令和 2 年（2020 年）2 月 18 日と 19 日に事業地内の遺構等の保存状態を確認するために確認調査（遺跡調査番号：20190592）を実施した。調査の結果、遺構・遺物が確認されたため、工事により影響を受ける範囲の取扱いについて協議を行った。工事により遺構が破壊される範囲を対象として、令和 2 年（2020 年）3 月 13 日付けで記録保存の指示・勧告を行った。指示・勧告内容に基づき令和 2 年（2020 年）4 月 10 日付けで姫路市と医療法人五葉会とで委託契約を締結し、姫路市埋蔵文化財センターが本発掘調査を実施した（遺跡調査番号：20200035）。

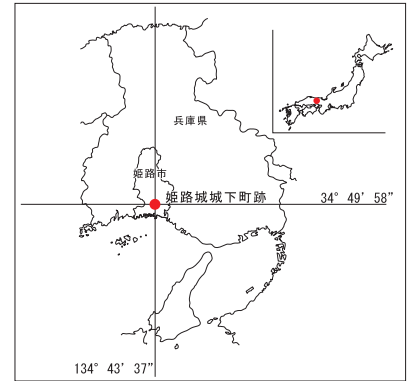


図1 遺跡位置図

第 2 節 調査の経過

調査対象面積は 615 m² で、遺構面は 2 面である。令和 2 年（2020 年）4 月 20 日より調査を開始した。盛土等を重機により除去し、遺構検出及び遺構の調査は人力によって行った。調査の進捗に伴い適宜、記録のための写真撮影、実測を実施した。残土置場の制約から場内を 2 分割して調査を行った。6 月 27 日に北側部分の調査を終え、その後、南側の調査を引き続き行った。

8 月 8 日に全ての現地作業を終えた。遺物はコンテナ（L590 mm × W386 mm × H106 mm）約 300 箱分が出土した。令和 3 年度に整理作業を行い、本報告書の刊行をもって全ての事業を終了した。

現地調査開始から整理作業終了までの体制は、以下のとおりである。

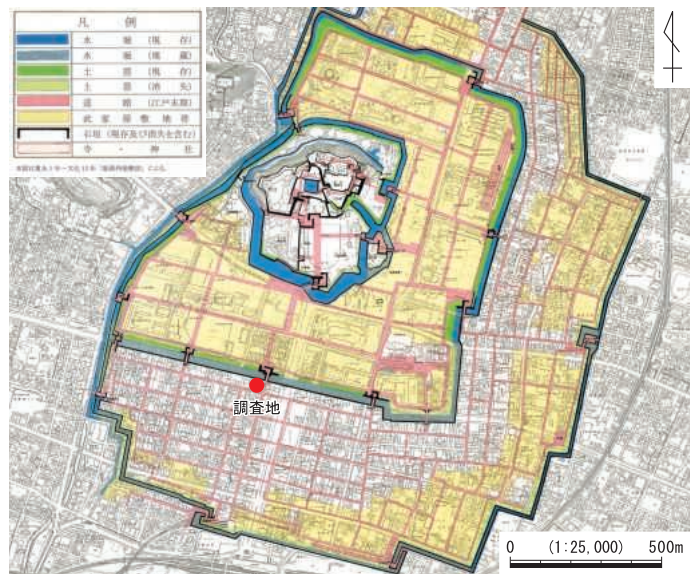


図2 調査地位置図

姫路市教育委員会

教育長 西田耕太郎 (令和 3 年 4 月 1 日～) 文化財課
松田克彦 (～令和 3 年 3 月 31 日) 課長
教育次長 峯野仁志 (令和 3 年 4 月 1 日～)
岡本 裕 (～令和 3 年 3 月 31 日) 技術主任
生涯学習部
部長 福永安洋
(令和 3 年 7 月 1 日より文化財課長兼務)

埋蔵文化財センター

館長 大谷輝彦 (令和 3 年 4 月 1 日～)
松本 智 (～令和 3 年 3 月 31 日)
課長補佐 岡崎政俊
森 恒裕
多田暢久 (令和 3 年 4 月 1 日～)
技術主任 中川 猛 (～令和 3 年 3 月 31 日)
技 師 奥山 貴 (令和 3 年 4 月 1 日～)

なお、発掘調査の実施にあたっては、安西工業株式会社 川鍋知秋の支援を得た。

第Ⅱ章 調査地周辺の歴史的環境

姫路城城下町跡は、姫路市域を南北に貫く市川と夢前川によって形成された沖積平野のほぼ中央に立地する。姫路平野には古代より東西交通の要である山陽道が通り、また南の海上には瀬戸内海航路があるなど、陸海の交通の要衝であった。こうした地理的要因を背景に、天正9年（1581）、羽柴秀吉により姫路城の基礎となる城郭が整備された。近世姫路城は池田輝政によって、慶長6年（1601）から8年間かけて平野部と独立丘陵である姫山・鷲山を利用して作られた平山城である。市川の支流である船場川を西限として内曲輪、中曲輪、外曲輪と縄張りが巡らされている。姫路城下町は、池田氏時代の規模をほぼ維持し、江戸時代を通じて大きな変化なく幕末を迎えている。

調査地は外曲輪の北部に位置する本町に位置し、姫路城大天守の南正面にあたる中ノ門に至る中ノ門筋と、西国街道（注）とが交差する北西角に立地する。調査地の南向かいには、かつて姫路藩の「御高札場」があり、周辺には大年寄役と本陣をつとめた国府寺家、那波家や椀箱屋三木家などの有力町人の屋敷があった。また西国街道をはさんだ向かい側には、「お夏清十郎」の舞台として知られる「但馬屋」があったと伝えられる。酒井氏時代初期（1751～1753）につくられた『姫路城下諸町絵図』では、調査地に該当する場所は「三郎右衛門持屋舗」2軒分と「左市郎持屋敷」の計3軒分の敷地に分かれている。

（注）西国街道は江戸時代前期寛永年間（1624～1644）に、一本南側の道に変更されたといわれている（『村翁夜話集』2015）。

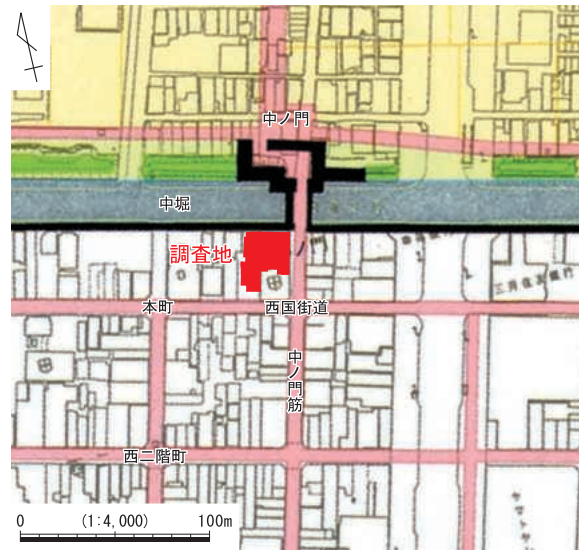


図3 調査地周辺図



写真1 調査地から姫路城大天守を望む（南から）

第三章 調査の結果

第1節 調査区の層序

基本層序は盛土、近代から江戸時代の整地層、城下町建設以前の旧耕土（以下、中世耕土層という）を経て、地山に至る。地山の標高は、西側で11.8～11.9m、東側で12.1mである。近現代の整地層は20～30cmの厚さがあり、その下位に30～50cmの厚さで江戸時代の整地層が確認できる。整地層は3～5層に分層できる。中世耕土層は、調査区南西側と北東側で良好に残されており、20～30cmの厚さを測る。調査は、中世耕土層上面を第1面とし、地山上面を第2面として実施した。第1面で江戸時代の遺構を全て検出しているが、切り合い等の関係から第2面で調査したものもある。そのため、本来の帰属時期とは異なるが、江戸時代後半の遺構を第1面、江戸時代前半からそれ以前の遺構を第2面として報告する。

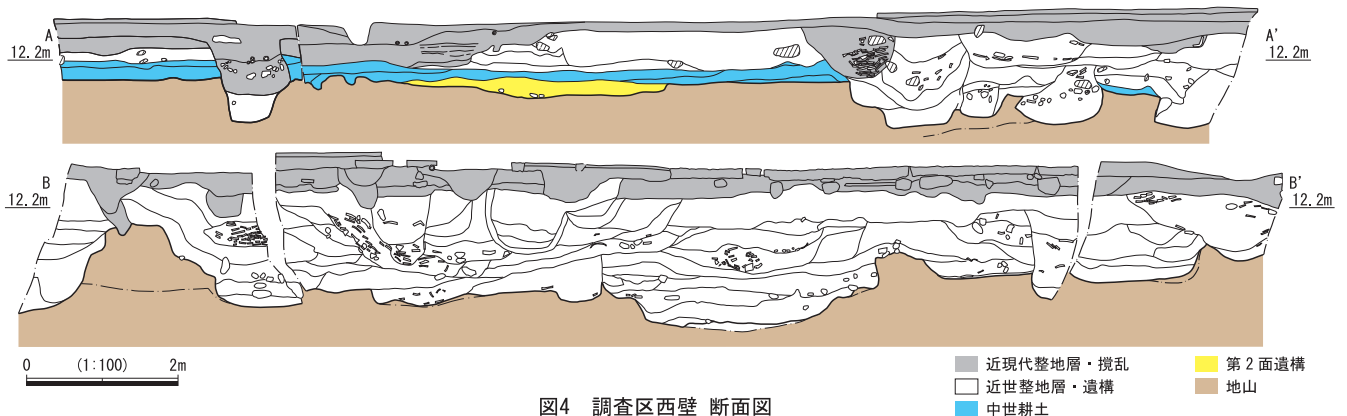


図4 調査区西壁 断面図

第2節 第1面の遺構と遺物

中ノ門筋に面した調査区東壁沿いで道路側溝を、西国街道及び中ノ門筋に近い調査区南東部から南西部にかけて、礎石や竈跡、埴列建物跡等を検出した（図9）。この範囲には中世耕土層が良好に残っており、建物等の居住空間があったと考えられる。対して、調査地北部には井戸や石列、土坑が集中して見られる。姫路城城下町跡では、これまで街路の交差する角地におけるまとまった調査例はほとんどなく、今回の調査は角地における遺構配置を確認することができた貴重な事例である。姫路城下における一般的な町屋内の遺構配置は、道に面した部分に建物（ミセ）があり、その奥に井戸や排水等水場関連の施設が配置され、敷地の奥に生活廃棄物を埋めた土坑や蔵、離れ、菜園等多目的に使用される空間（オク）が広がる。第1面の遺構検出状況からは、西国街道と中ノ門筋の両街路に面して建物があり、その奥にあたる北西部に井戸や深い土坑が配置されるように復元できる。建物が街路に面する範囲は、南北32m、東西26mを測り、城下町における町屋遺構に比して規模が大きいことから大店とみられる。以下、検出した遺構の概要を述べる。

道路側溝（図5・6）中ノ門から延びる街路の側溝にあたり、現在の道路位置よりも西に位置する。また、北東部だけで確認できたことから、中ノ門前にあたる部分のみ道路が拡幅されている可能性もある。

埴列建物（図7・8）調査区南端部で礎石と組み合う方形の埴列（SH261）を検出した。部分的な検出に留まるが、中世耕土層を掘り込んで構築されている。遺物が伴わないため、時期は不明である。

石列（図9・10）8条の石列を確認した。全て江戸時代後半から近代にかけてのものである。そのうち石列2は敷地境の可能性がある。石列3は石組溝で調査区中央部で鋸形に屈曲する。19世紀前半以降に築かれた排水施設と考えられる。調査区北西隅で検出した石列1・7は蔵等の基礎とみられる。

半地下式竈（図11・12）調査区南西部で大型の焚口を2基もつ半地下式竈（SL143・144）を検出した。またその西側でも竈の痕跡（SK237・253・SL245）を確認し、継続して半地下式竈が構築されていたことが判明する。

井戸（図13・14）調査区西側で2基、北東部で2基検出した。いずれも石組井戸で、SE47は近代以降、SE20は17世紀後半以降、SE118は17世紀後半から18世紀、SE149は19世紀前半の遺物が出土した。

土坑（図15・16）200基以上検出した。SK107は石列1の下層遺構で、色絵鉢や青磁染付碗等が出土した。SK119は石列3の下層にあたり、18世紀から19世紀前半の遺物が出土している。SK241は石列2の下層にあたり、焼継ぎ痕が残る湯呑み碗等が出土している。その様相から19世紀後半に位置づけられる。この他、SK7からは播磨産の焙烙と瀬戸内系の焙烙が共伴し、SK32からは高嶋石製の硯、SK94からは肥前系磁器碗・蓋や端反碗の蓋等が出土している。

文字が記された遺物（写真19）SK7をはじめ、第1面検出遺構から朱等で文字が記された磁器碗や皿が出土した。それらには「角いせや」「いせや」「イせ口」等の表記がみられる。「角いせや」の表記は調査地の立地とも合致することから、調査地に所在した店の屋号であると考えられる。またそれらの土器は、敷地境と推測した石列2を越えた遺構でも確認できることから、石列2構築以前には敷地の分割はされておらず、一連の敷地であったことがわかる。また、SK270は北壁で検出した近現代の土坑であるが、朱書きで漢数字を記した皿がまとめて出土した（図17）。

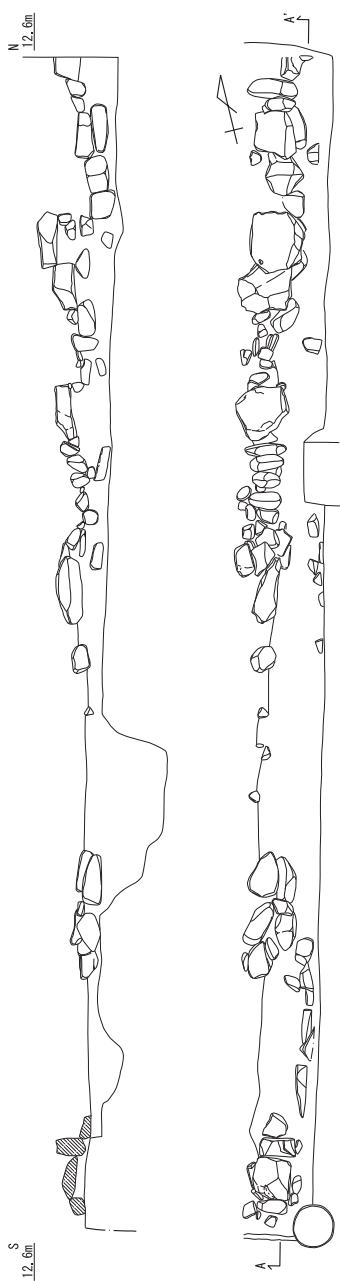


図5 道路側溝 平・断面図

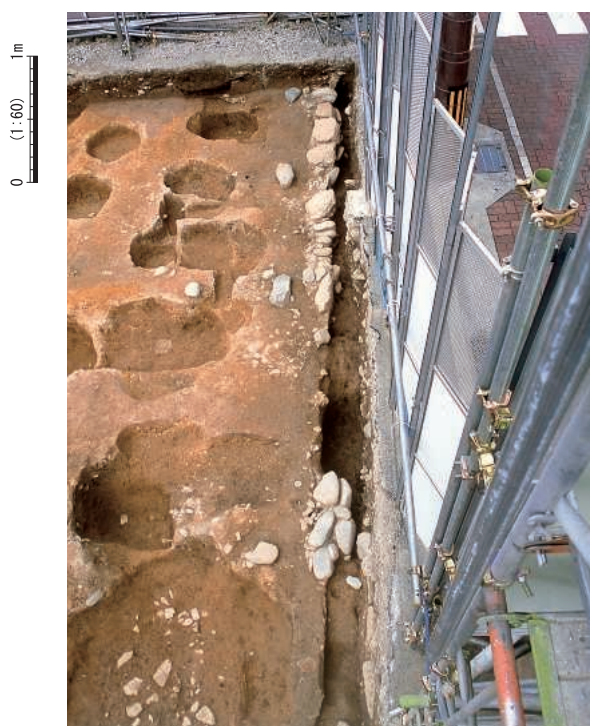


写真2 道路側溝（南から）



0 (1:4) 10cm

図6 道路側溝 出土遺物

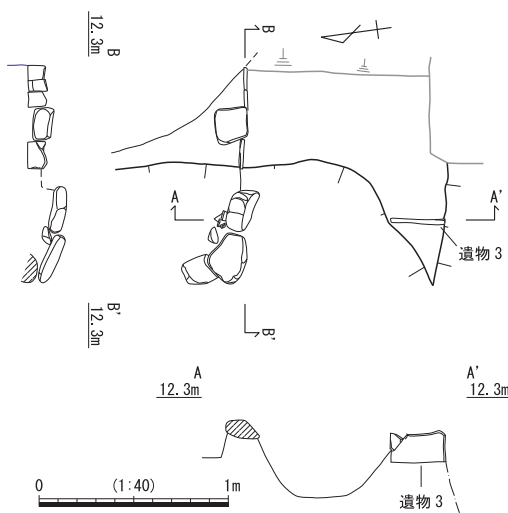


図7 埦列建物SH261 平・断面図

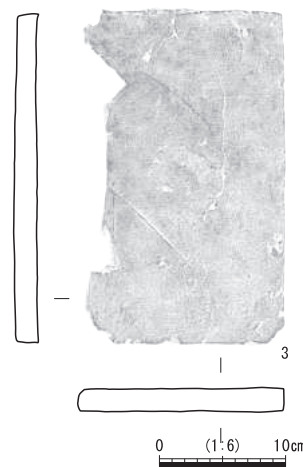
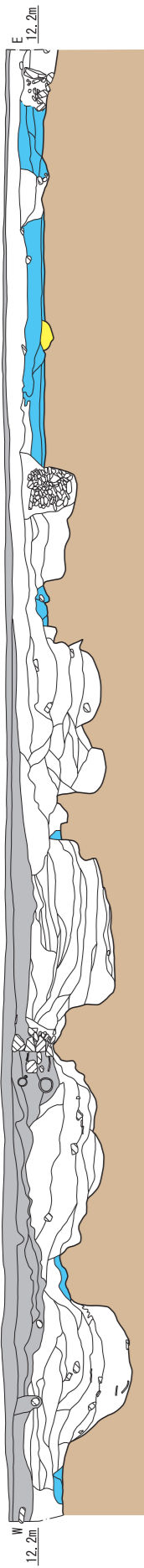


図8 埦列SH261 出土遺物



- 近現代整地層・攪乱
- 近世整地層・遺構
- 中世耕土
- 第2面遺構
- 地山

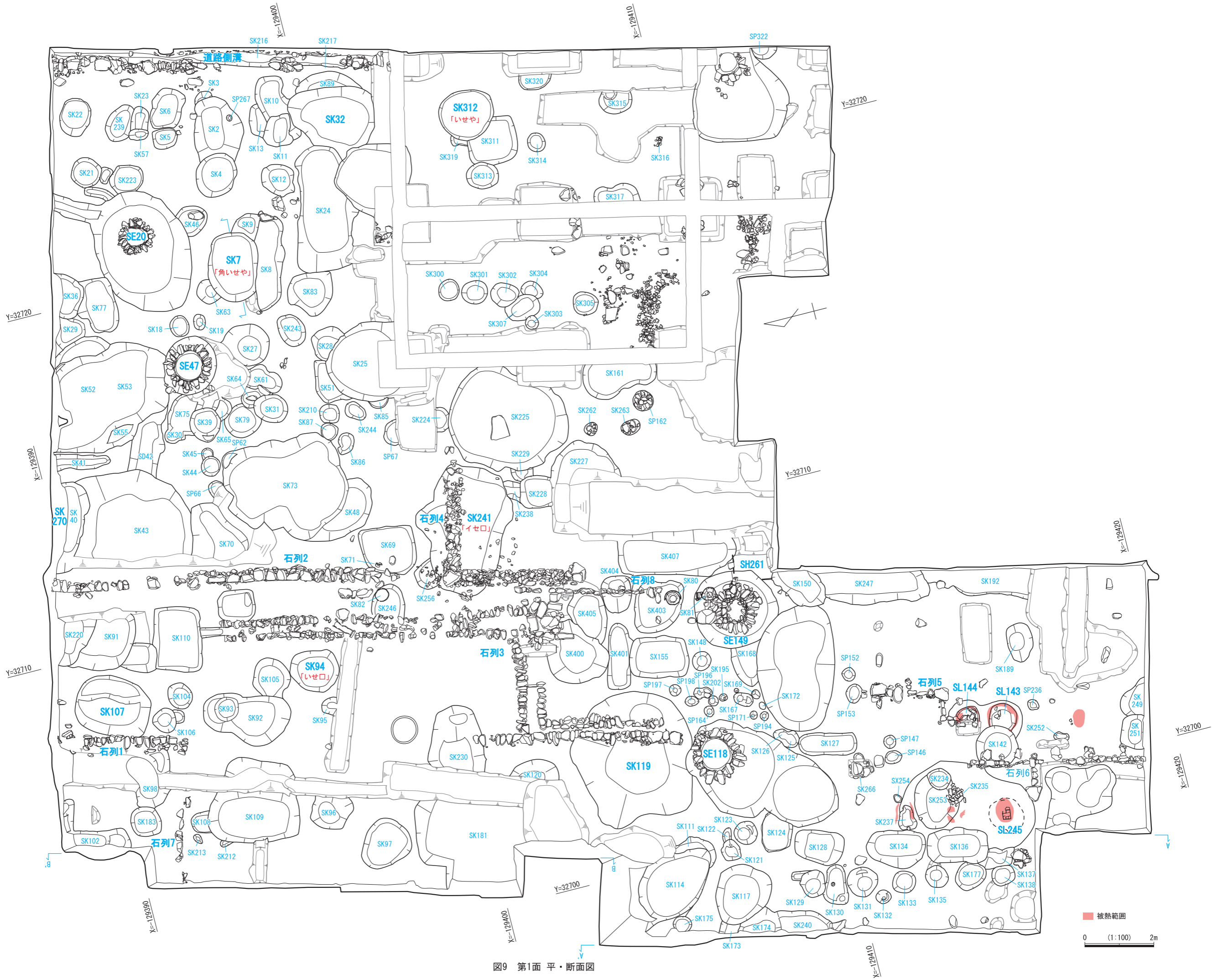


図9 第1面平・断面図



写真3 調査区第1面 オルソ写真



写真4 石列3 (南から)



写真5 石列3 (西から)

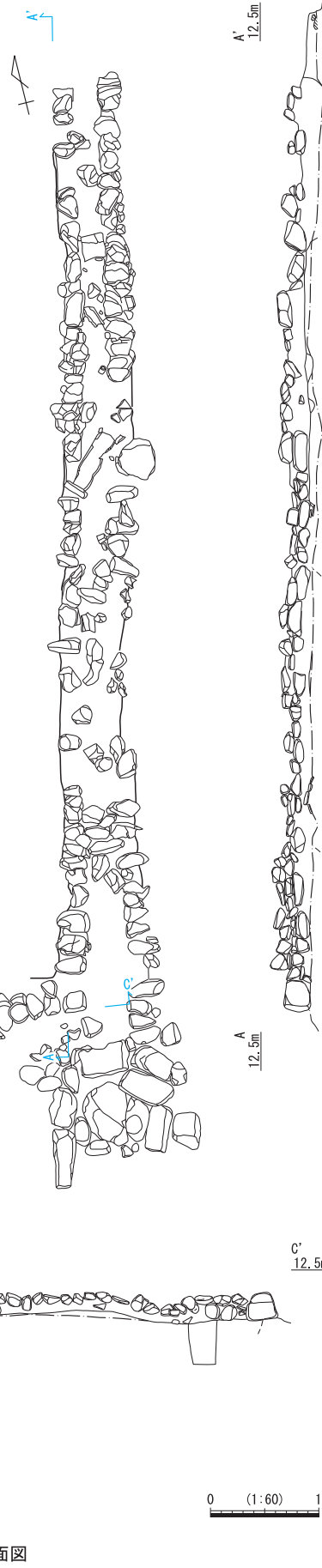


図10 石列3 平・立面図

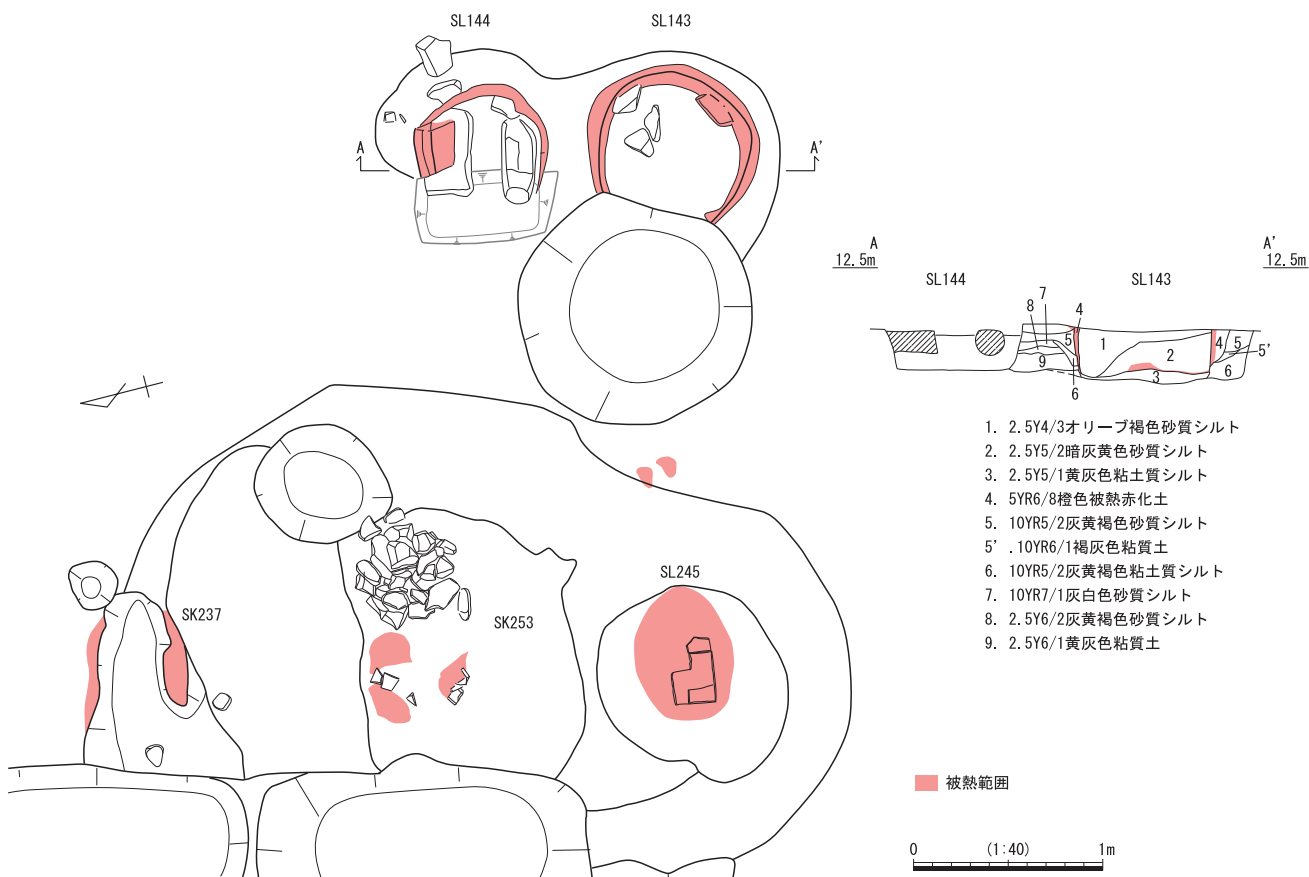


図11 竈遺構 平・断面図



写真6 SL143・144及び周辺の被熱部



写真7 SL245炉床(東から)



写真8 SL143・144(西から)

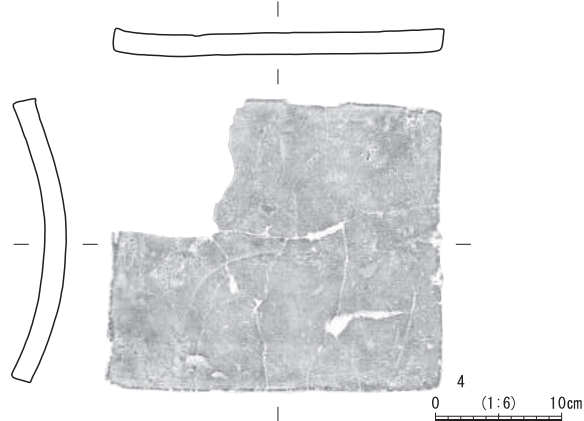


図12 SL245 出土遺物



写真9 SE20全景（北から）・断面（南から）

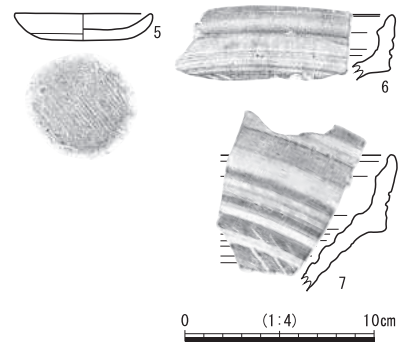
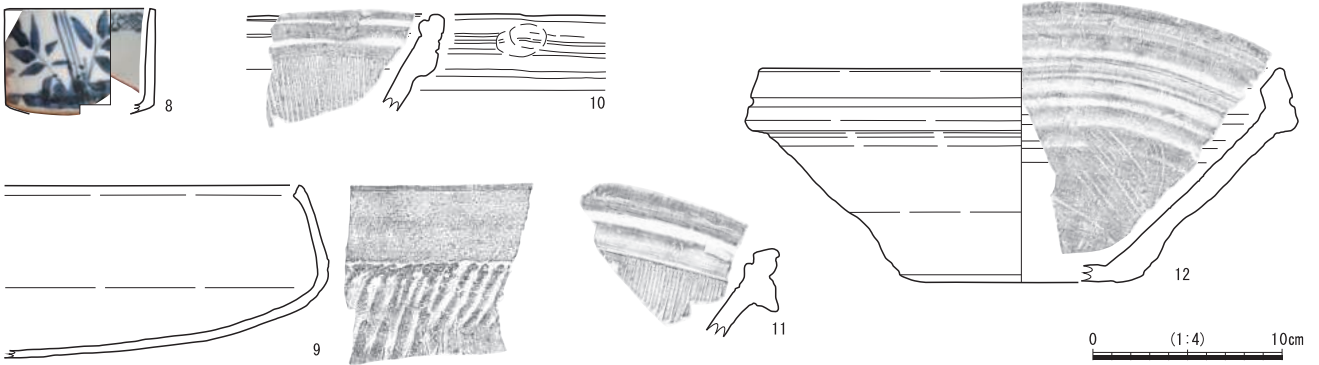


図13 SE20 出土遺物

SE118



SE149

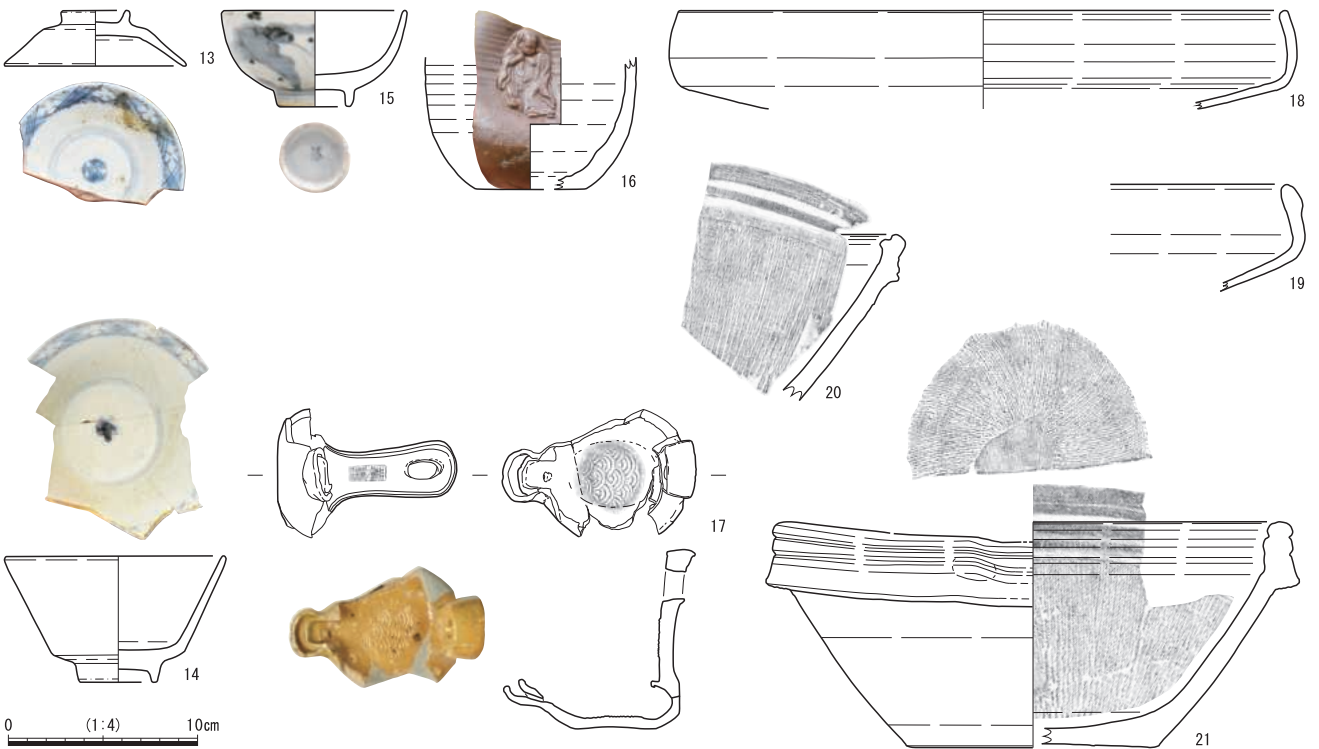


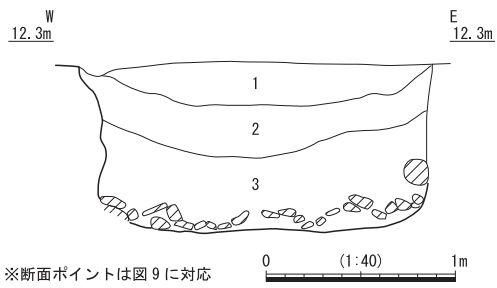
図14 SE118・SE149 出土遺物



写真10 SK7 土層断面（南から）



写真11 SK32 土層断面（西から）



1. 2.5Y5/8 明黄褐色の焼土と 5YR2/1 黒褐色炭の互層
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土（ハマグリ、瓦片、陶磁器片多く含み、もろい）
3. 2.5Y2/1 黒色の炭層（径 15 cm大の円礫多く含み、もろい）

図15 SK7 断面図



写真12 SK94 土層断面（西から）



写真13 SK107 土層断面（東から）



写真15 SK119 土層断面（西から）



写真17 SK241 土層断面（北東から）



写真14 SK107



写真16 SK119



写真18 SK241

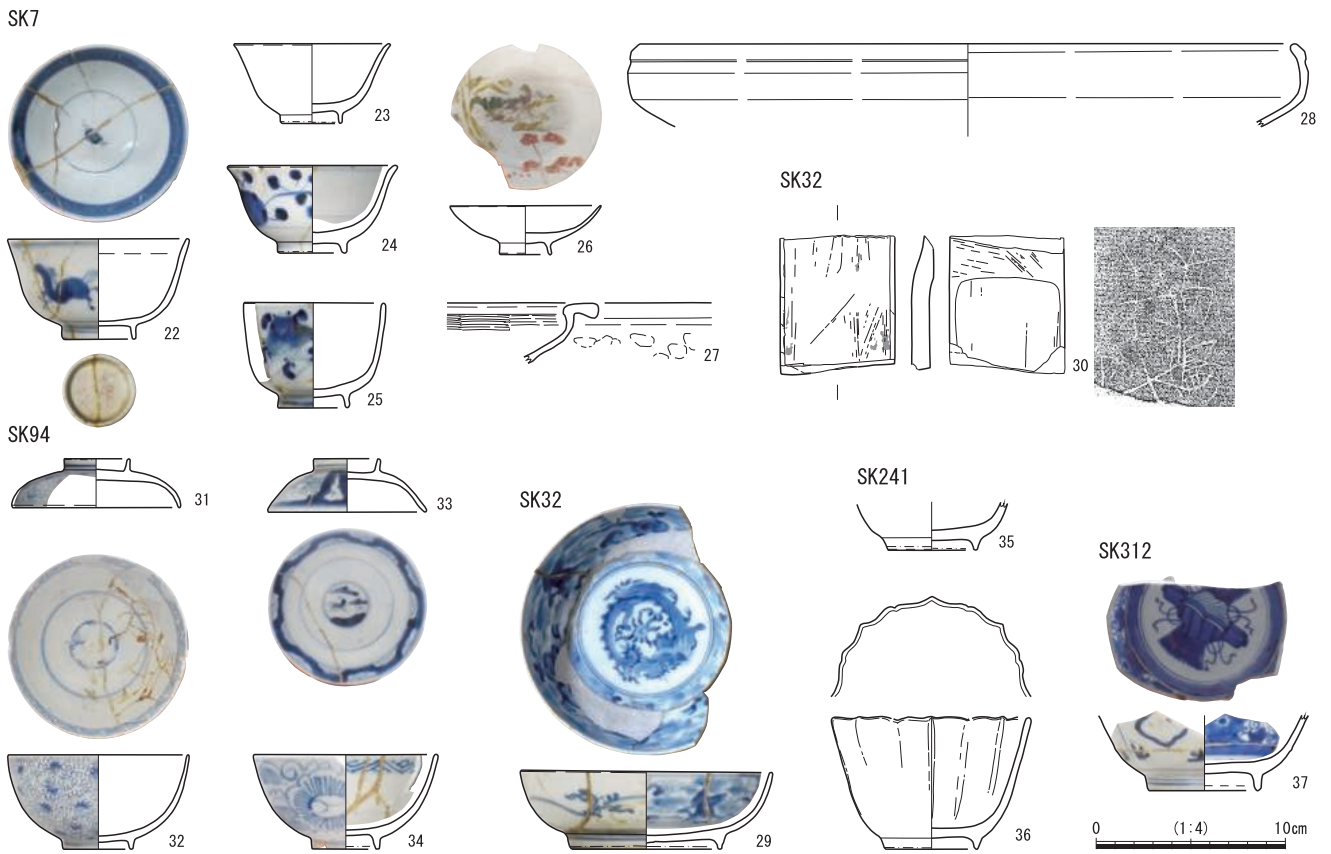
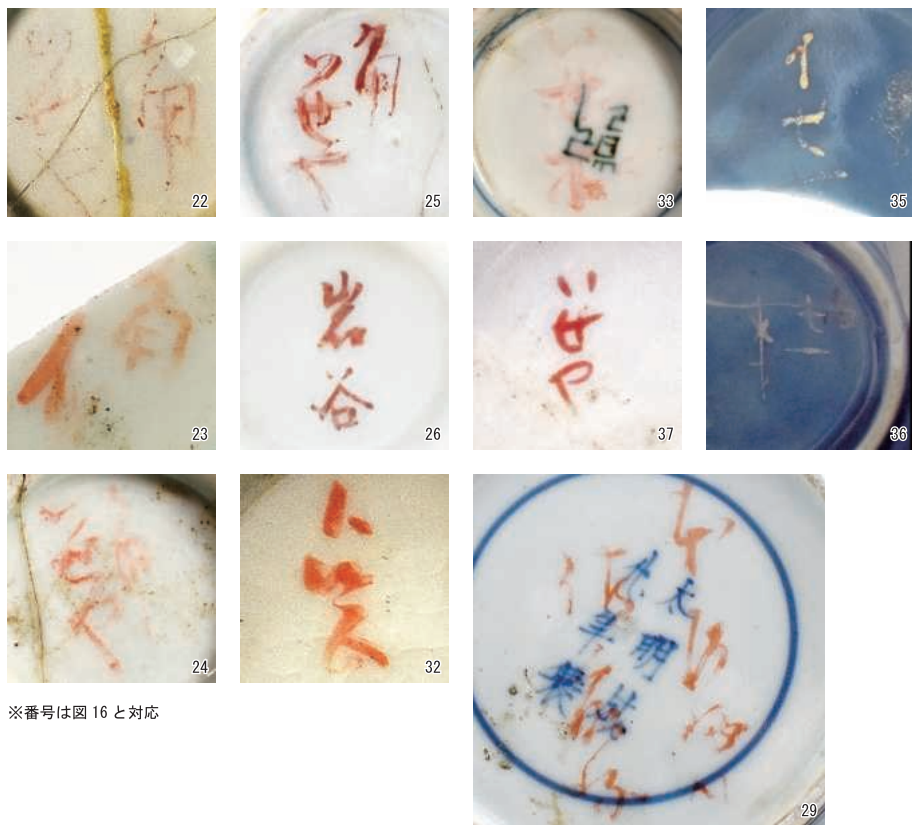


図16 SK7・SK32・SK94・SK241・SK312 出土遺物



※番号は図16と対応

写真19 第1面出土文字資料



図17 近代以降の遺物

第3節 第2面の遺構と遺物

地山上面で検出した江戸時代以前の遺構と17世紀代を中心とする遺構の様相について報告する。江戸時代の遺構は本来、第1面で検出すべきものであるが、遺構の切り合いが激しいため、第2面まで下げて認識したものもあることから、これらも含めて報告する。なお、第2面で検出した遺構は、2-（遺構名）としている。

17世紀代の遺構と遺物

17世紀代の遺構としては、調査区東部では井戸1基を、西部では鍛冶に使用された鞆羽口や鉄滓が廃棄された土坑を検出し、北西部では土坑が激しく切り合っている状況を確認した（図18）。一方、西国街道及び中ノ門筋に近い調査区南東部から南西部にかけての範囲では、土坑が少なく中世耕土の残存状況も良好であることから、第1面と同じく大規模な建物（大店）が存在した可能性がある。また推定される大店建物の範囲の内側に位置する、井戸（SE318）や鍛冶関連遺物を含む土坑（SK199）の配置から、大店が建つ以前は、東部と西部で2軒の町屋に分かれていた可能性が指摘できる。

SE318（図19）調査区南東隅で検出した石組井戸で、井側内埋土から備前焼の壺（40）や播鉢（41・42）が出土している。

SK33（図19）調査区北東部で検出した土坑であるが、掘方の形状から元は井戸であった可能性がある。遺物は43・44が土師器皿。45・46は青花碗の口縁部片。47は焙烙。48は備前焼播鉢である。

SK159（図20・21）調査区南西部で検出した炭化物で埋められた土坑である。49は肥前系陶器碗。50が土師器皿。51・52は肥前系陶器皿。53は焙烙。54は備前焼の盤と思われる。

SK199（図22）SK159の東隣で検出した大形土坑で、多量の鞆の羽口や鉄滓等の鍛冶関連遺物が出土した。55は砂目の肥前系陶器碗。56は土師器皿。57が青花の小碗。58は備前焼播鉢。59～61は焙烙。62～65は鞆羽口。66は片側表面にムシロ状跡が残る粘土塊で、被熱により硬化しており、鍛冶作業に伴う過程で生成されたものと考えられる。

2-SK31（図23）調査区北西部の石列1の下層で検出した土坑である。67は高台径が広く体部が直立する肥前系染付碗。68は備前焼播鉢、69は堺・明石系播鉢。70～72は焙烙である。

2-SK35（写真25）調査区西側のやや北寄りで検出した廃棄土坑である。73は京焼風陶器碗の高台内の写真で、「菊屋」の墨書がみられる。74は特異な左巻き三巴文が施された軒丸瓦である。

2-SK36（図24）2-SK35の東に隣接しており、埋土には多量の瓦と礫を包含する。75は青花碗。76は外面に薄く青磁釉のかかった磁器碗。77は肥前系磁器碗である。78は唐草文軒平瓦で、顎接合部平瓦際にヨコナデを施す。

2-SK77（図24）調査区北西部の西壁際で検出した廃棄土坑である。79が京焼風陶器。80は鞆羽口である。

江戸時代以前の遺構と遺物

中世耕土層の下位にあたる地山面において、灰色埋土を基調とする東西方向と南北方向に掘られた溝を5条検出した。いずれの溝も飾磨郡の条里方向と、概ね合致している。これらの溝は、掘り込みが浅く近接して存在することから、区画遺構ではなく、耕作に伴うものと推測できる。

2-SD6（図25）調査区南西部で検出した東西方向に延びる溝で、直交する2-SD24によって切られる。

2-SD24（図25・27）2-SD6と直交する南北方向の溝。遺物は81が土師器鍋の口縁部。82が底部糸切りの須恵器碗である。

2-SD148（図25）調査区中央部で検出した東西方向に延びる溝で、施釉陶器の細片が出土している。

2-SD89・2-SD90（図26・27）調査区北部で検出した、東西方向に平行して延びる2条の溝で、2-SD90は調査区の東端から北西部まで続く。遺物は2-SD89から備前焼播鉢（83）と壺（84）が出土した。2-SD90の遺物は、85～87が土師器皿で、3点とも口縁端部に面をもつ。88・89は備前焼播鉢である。また2-SD90からは獣骨（写真31）がまとまって出土した。これらの遺物は17世紀初頭の遺構から出土することもあり、本遺構の時期を特定することは困難ではあるが、肥前陶器等を含んでいない点と、埋土の様相から城下町建設直前の時期に位置づけておきたい。



写真20 調査区第2面 オルソ写真



写真21 SE318石組み検出状況（南から）

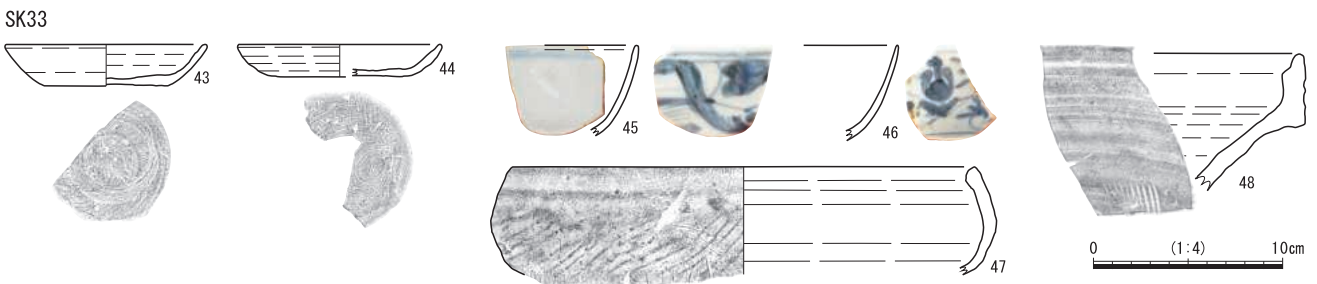
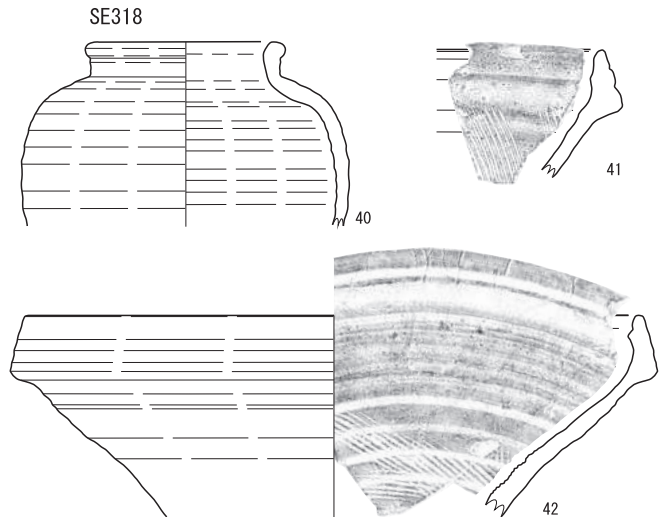
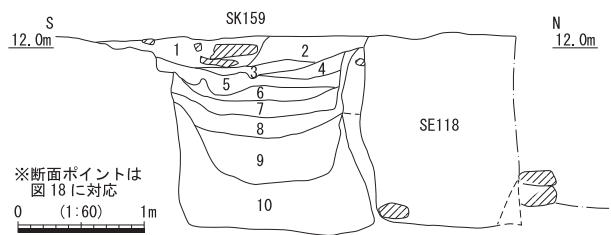


図19 SE318・SK33 出土遺物



写真22 SK159 土層断面（東から）



1. 10YR4/1 褐灰色土（径50～70mmの角の丸い礫、砂粒を混入し、硬くしめる）
2. 10YR5/3 にぶい黄橙色砂質シルト
3. 10YR5/2 暗灰黄色粗砂質シルト
4. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（10YR7/6 明黄褐色粘質土ブロック多く混入し、しめる）
5. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト（石の小片を混入し、6層との境に10YR6/6 にぶい黄橙色砂質土）
6. 10YR5/1 褐灰色シルト（層上部に炭の層）
7. 10YR7/6 明黄褐色砂質土と10YR3/1 褐灰色砂質シルトの互層
8. 10YR6/1 褐灰色粘質土（炭が流れ込むように斜めに堆積している）
9. 2.5Y7/4 浅黄色粘質土と10YR3/1 黒褐色土の瓦層が6面程サンドイッチ状に重積
10. 2.5Y4/1 黄灰色粘質土（所々に炭が横方向に混入）

図20 SK159 断面図

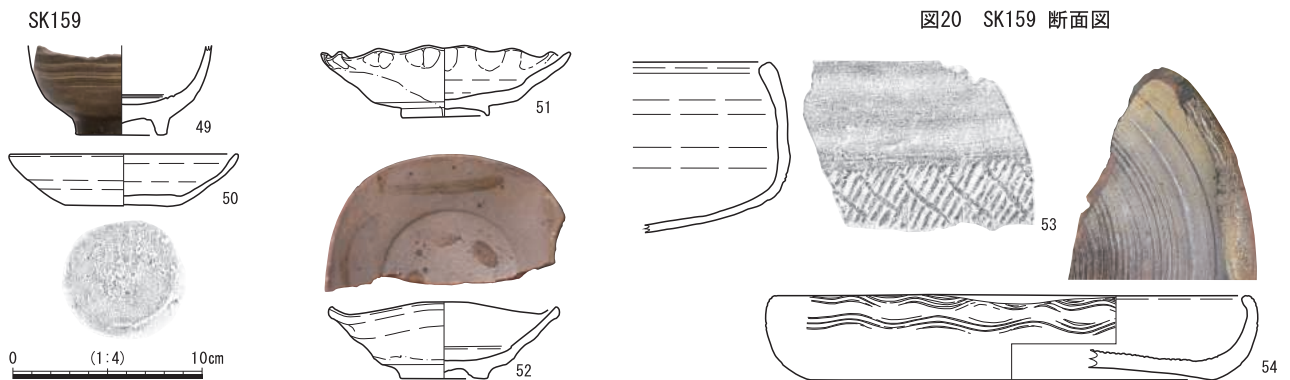
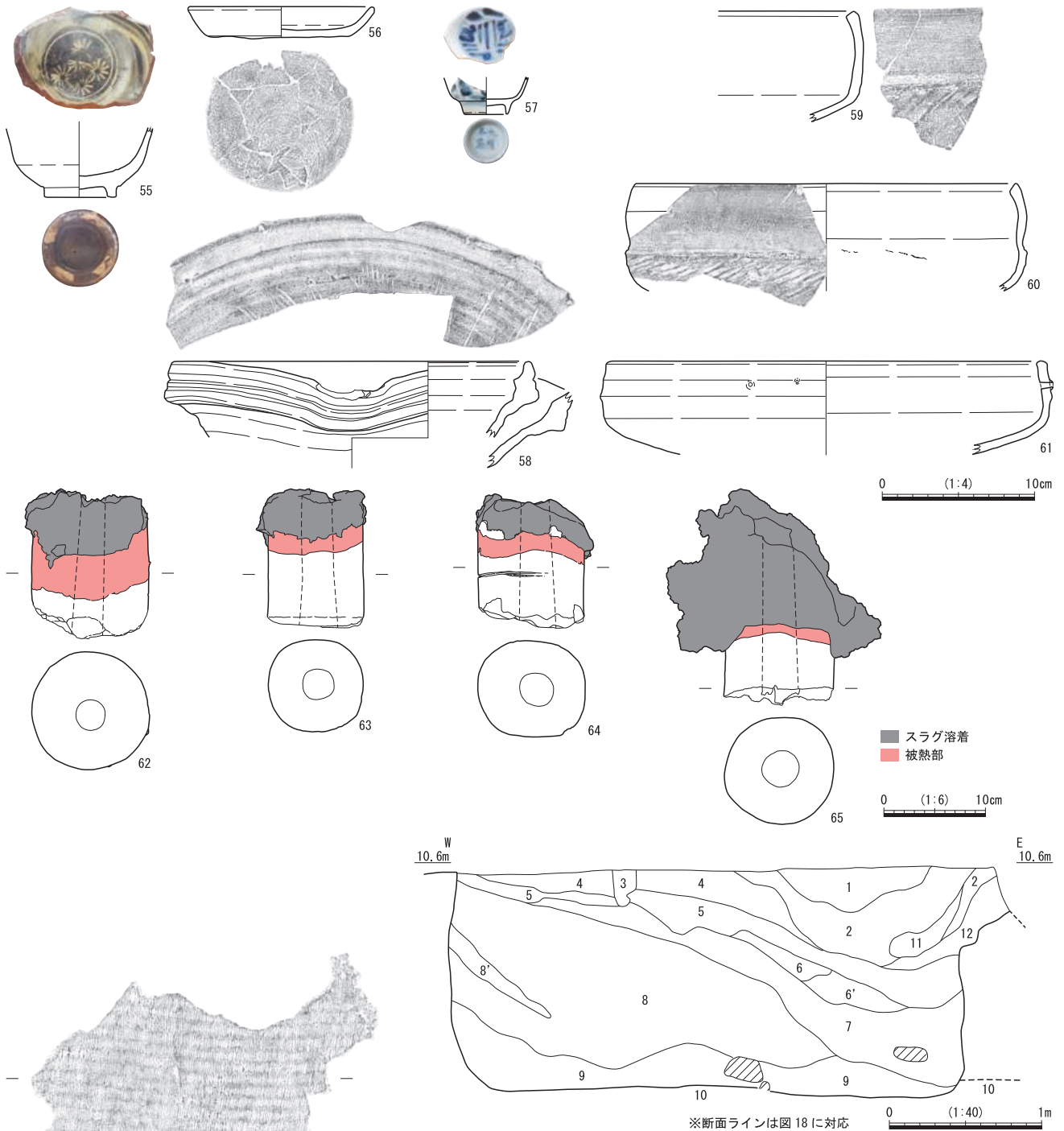


図21 SK159 出土遺物



1. 10YR6/3 にぶい黄橙色シルト（炭粒、10YR8/6 黄橙色粘質土ブロックや瓦片、角の丸い礫を混入し、しまる）
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト（瓦片、礫、陶器摺鉢片含む。1層よりも砂粒が多く混ざり、しまる）
3. 10YR6/1 褐灰色シルト質粘土（ブロック状に4層に入っており、しまる）
4. 10YR6/1 褐灰色シルト質粘土（炭粒わずかに含む。10YR6/6 明黄褐色粘土ブロックが5層との境に沿って堆積）
5. 2.5Y6/1 灰色粘質土（4層よりも炭粒多く混入。2.5Y5/1 黄灰色砂質土が噛むように層中に混入し、軟らかい）
6. 2.5Y7/4 浅黄色粘質土（焼けた瓦状の破片混入。炭を含み粘性強い）
- 6'. 10YR6/1 褐灰色砂質シルト（2.5Y8/6 黄色粘土のブロックをまとめて混入し、しまる）
7. 5Y7/1 灰白色砂質土（角が丸い小さな礫、瓦片、10YR7/6 黄橙色のブロックを若干混入し、6'層よりも軟らかい）
8. 2.5Y3/2 暗赤褐色土（鉱滓、籾羽口多く検出される層。大変もろい）
- 8'. 10YR7/1 灰白色粘質土（鉱滓を混入し、8層に左から右へ斜堆積する）
9. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂（10YR1/6 明黄褐色粘土の塊、径30cm大の円礫、2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト層含む）
10. 2.5Y6/2 灰黄色極細砂（地山）
11. 2.5Y7/4 浅黄色粗砂
12. 10YR5/1 褐灰色シルト（炭片、径6cmの角の丸い礫が左方向に斜堆積して硬い）

図22 SK199 断面図・出土遺物



写真23 2-SK31 土層断面（西から）



写真24 2-SK35 土層断面（南西から）

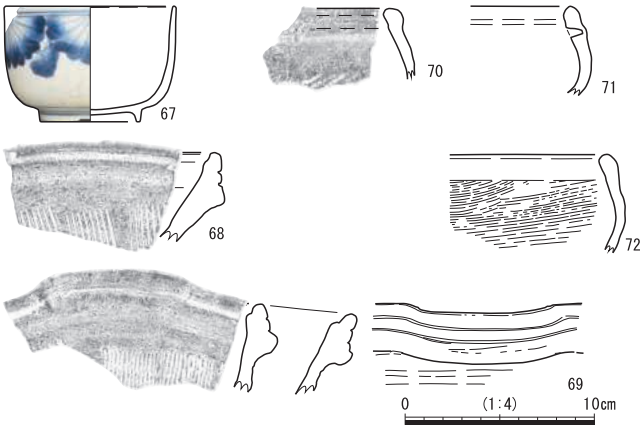


図23 2-SK31 出土遺物



写真25 2-SK35 出土遺物



写真26 2-SK36 土層断面（西から）



写真27 2-SK74-78 土層断面（南東から）

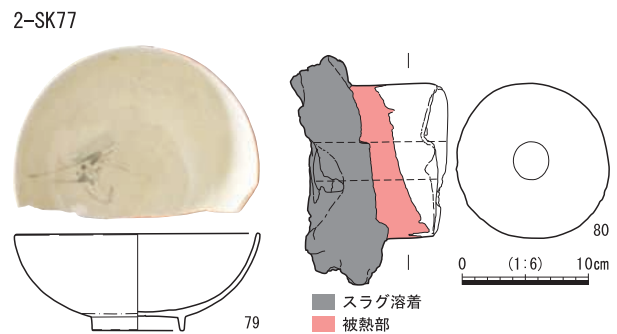
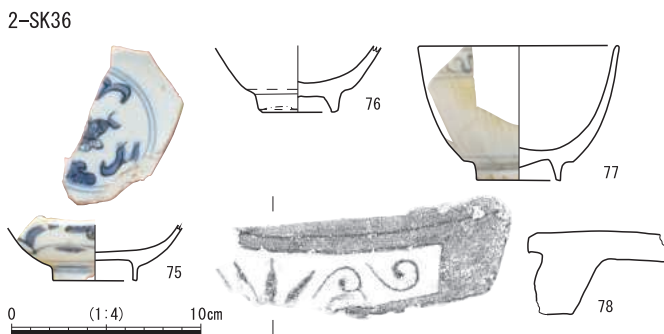


図24 2-SK36・2-SK77 出土遺物



写真28 2-SD6 完掘 (西から)

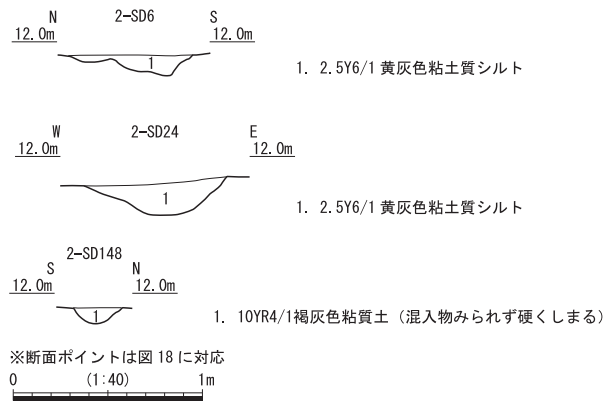


図25 2-SD6・2-SD24・2-SD148 断面図



写真29 2-SD89・90 完掘 (西から)



写真30 2-SD90 土層断面 (西から)

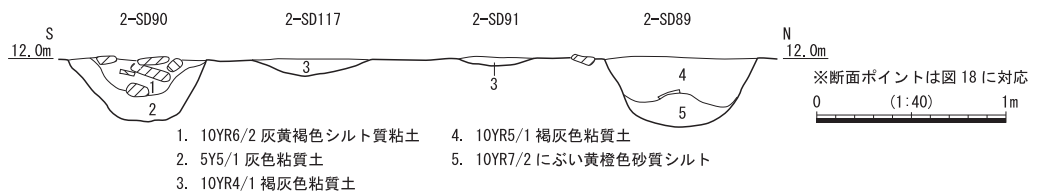


図26 2-SD89・2-SD90・2-SD91・2-SD117 断面図

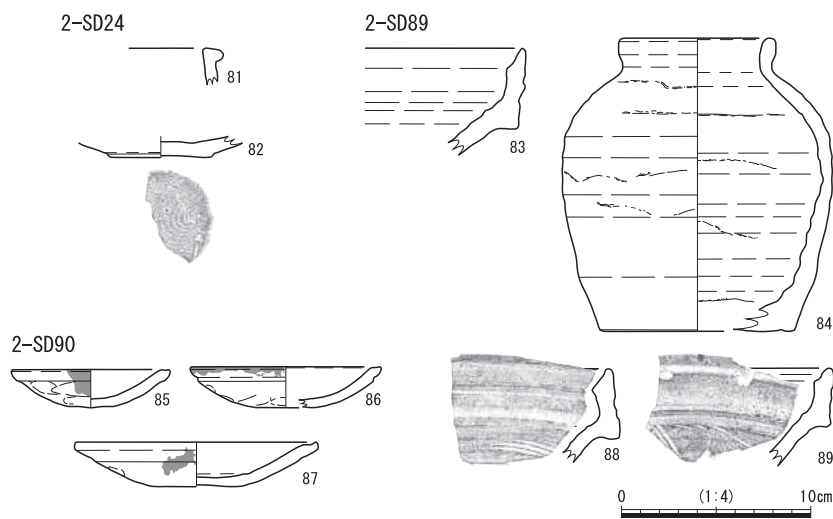


図27 2-SD24・2-SD89・2-SD90 出土遺物



写真31 2-SD90 出土遺物

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
第1面								
SK2	190	36	37	楕円形	SK4の東	SK3O SK4O	断面形状は逆台形状。埋土は3層に区分し斜堆積。	瓦を含む。
SK3	(35)	53	35	円形	SK2の東	SK2×	断面形状はU字状。埋土は硬くしまる単層。	陶器片を混入。
SK4	95	60	60	楕円形	SK2の西	SK2O	断面形状はU字状。埋土上層は硬くしまる。2層に区分。	礫多く含む。瓦片、陶器片出土。
SK5	54	73	40	楕円形	SK2の北	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	炭・焼土片含む。2-SD89上層の可能性あり。
SK6	82	44	26	楕円形	SK2の北	なし	断面形状はU字状で3層に区分。	焼土を多く含んでいて近隣に炉があった可能性がある。
SK7	187	142	88	隅丸方形	SK8の北	SK8O SK9O	断面形状はU字状。埋土は硬くしまり3層に区分。	ハマグリ、瓦片の他、「角いせや」等の朱書きされた磁器碗が5点(図16-22~26)、瀬戸内系焙烙(図16-27)等出土。
SK8	150	70	39	楕円形	SK7の南	SK7×	断面形状は不定形で、礫を多く混入する単層。	元は2-SD90である可能性あり。
SK9	72	67	35	不定形	SK7の東	SK7×	断面形状はU字状。埋土は軟らかく2層に区分。	表層に礫と焼土を多く含む。下位に瓦が集中。
SK10	115	(72)	14	楕円形	SK11の東	SK13O	断面形状は逆台形状。3層に区分。	瓦片を検出。元は2-SD90の可能性あり。
SK11	93	(85)	57	楕円形	SK32の北	SK13O	断面形状は逆台形状。3層に区分。	棧瓦片と礫が混在。
SK12	90	92	34	円形	SK24の北	なし	断面形状はU字状で3層に区分。	炭片、焼土片が埋土に混入。元は2-SD90である可能性あり。
SK13	84	(50)	13	円形	SK10の北	SK10・11×	断面形状はU字状で2層に区分。	アワビ、サザエが混入。中世耕土を切る。
SK18	58	55	7	円形	SE47の東	なし	断面形状は皿状で単層。	瓦片出土。
SK19	49	36	6	円形	SE47の東	なし	断面形状は皿状で単層。	
SE20	315	315	(250)	楕円形	SE47の北東	SK223,46O SK77×	断面形状は逆凸形で5層に区分され、井筒部は下部まで石積み。	裏込めが広い石組井戸。手づくねの土師皿(図13-5)や備前焼掃鉢(図13-6・7)等出土。
SK21	93	68	41	円形	SE20の北東	なし	断面形状はくびれのあるU字状で3層に区分。	
SK22	109	89	47	楕円形	SK21の東	なし	断面形状はU字状で単層。	
SK23	62	40	28	楕円形	SK6の北	SK57×	断面形状は皿状。埋土は硬くしまり、ブロック埋土の単層。	
SK24	(300)	(110)	87	楕円形	SK32と83の間	SK32×	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦片を混入する廃棄土坑。
SK25	(250)	210	115	円形	SK51の南	SK85・51・28O	断面形状は逆台形状。埋土は4層に区分。4層まで瓦が混入。	井戸状の大きな掘り方を上から支柱基礎工事のために破壊され、近代の瓦や陶磁器が出土。元は井戸の可能性あり。
SK27	153	100	37	楕円形	SE47の南	SE47×	断面形状は逆台形状。単層。	1/3に攪乱を受ける。
SK28	95	40	53	円形	SK25の北	SK25×	断面形状はU字状で埋土は2層に区分。	上層に瓦片多数混入。
SK29	95	64	30	楕円形	北壁際 SK77の南	SK77O	断面形状はU字状で埋土は2層に区分。	瓦、広東碗片、二枚貝出土。廃棄土坑。
SK30	44	45	10	円形	SD42の南	SK75O	断面形状は皿状で単層。	砂礫を埋土中に混入。
SK31	90	85	14	楕円形	SK79の南	SK64・79O	断面形状は皿状で2層に区分。埋土は総じてシルト。	埋土に砂礫を混入。
SK32	(250)	200	78	円形	調査区北東	SK24	断面形状はU字状。	瓦、陶器鉢の他、高台内に文字が朱書きされた染付皿(図16-29)、高嶋石製硯(図16-30)等出土。廃棄土坑。
SK35	105	(不明)	87	不明	北壁内	なし	断面形状はU字状。	礫が充填。北壁に半分残存。
SK36	30	(80)	4	円形	北壁際	SK29O	断面形状は皿状。単層。	炭粒と焼土粒を混入
SK37	56	(35)	40	円形	北壁内	なし	断面形状はU字状。	
SK39	110	80	38	楕円形	調査区北 SE47の西	SK75O SK65O	2層に区分。	菊散筒形碗、瓦片出土。
SK40	(340)	(80)	155	楕円形	北壁際 SK43の北	SK43O SK270×	6層に区分。	貝殻、瓦、陶磁器を混入する廃棄土坑。石列2の東で収束。
SK41	(163)	130	60	楕円形	北壁際 SK440の東	なし	埋土は単層。掘方をもち、石を並べて埋めている。	近代の磁器を混入。
SD42	180	60	15	溝状	調査区北 SK43の東	SK43・53×	断面形状は皿状で砂礫を含む単層。	2-SD89の上層。
SK43	264	(260)	73	楕円形	調査区北 SK40の南	SK40×	断面形状はU字状。埋土は大きく4層に区分。	棧瓦が堆積。廃棄土坑。石列2の東で収束。
SK44	53	57	25	円形	SK73の北	SK45×	断面形状はU字状で6層に区分、砂質シルトと砂層の互層で水の影響を受けている。	
SK45	35	26	10	円形	SK73の北	SK44O	断面形状はU字状。	
SK46	68	55	48	楕円形	SE20の南	SE20×	断面形状はU字状。	
SE47	170	170	(220)	円形	SE20の南西	SK53・75O	断面形状は逆凸形で裏込め部分が井筒部に対して狭い。	井筒部埋土中より缶やナイロンを検出。近代以降。
SK48	125	(88)	62.5	楕円形	SK73の南	SK73×	断面形状はU字状で2層に区分。総じて粘質土。	磁器碗、多数の瓦出土。廃棄土坑。
SK51	112	60	10	楕円形	SK25の北	SK25×	断面形状はU字状で単層。	礫が充填。
SK52	(200)	(100)	(50)	楕円形	SK53の北	不明	角の丸い礫を多く混入。礫がシルトと共に埋没。	SK53と同一遺構の可能性あり。検出時表層に礫が多く露出しプランが不明瞭。
SK53	(100)	(100)	(40)	楕円形	SK52の南	不明	角の丸い礫を多く混入。礫がシルトと共に埋没。	SK52と同一遺構の可能性あり。検出時表層に礫が多く露出しプランが不明瞭。
SK55	(300)	(200)	85	楕円形	SK53の西	SK52×	断面形状はU字状で3層に区分。北壁に一部残存。	検出時表層に礫が多く露出しプランが不明瞭。

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
SK57	42	30	40	楕円形	SK23の西	SK23,239○	断面形状は皿状。埋土は砂質シルトで硬くしまる。2層に区分。	礫が多量に混入。
SK61	90	(90)	32	楕円形	SK27の西	SK64○	断面形状はU字状。埋土はシルトに砂混じる。	
SP62	54	61	44	円形	下面にSK73を確認	SK73○	断面形状はU字状で2層に区分。	陶器急須、青花出土。
SK63	70	45	45	円形	SK7の北	SK7×	断面形状はU字状で3層に区分。	棧瓦が集中して出土。瓦を主体とする廃棄土坑。
SK64	130	60	22	円形	SE47の南	SK79× SK61○ SK31×	不明。	
SK65	115	(40)	41	不定形	SE47の南西	SE47×	断面形状はW字状で5層に区分。	瓦片、陶器片、瓦片を含む。
SP66	50	51	40	円形	SK70の東	不明	断面形状は逆台形状。	柱痕跡あり。東側に礎盤。高台内蛇の目釉剥青磁染付片出土。
SP67	70	43	28	楕円形	SK25の西	なし	断面形状はU字状。	50%を攪乱で消失。
SK69	172	(125)	40	隅丸方形	石列2の東	石列2×	断面形状は皿状。	肥前系磁器皿、葡萄絵柄の陶器片出土。
SK70	194	80	96	隅丸三角形	SK43と73の間	SK43×	断面形状は逆L字形で5層に区分する。	他に焼却して廃棄している。何度も掘削され埋土が複雑化。
SK71	42	40	10	円形	SK69南西端の壘	SK69×	断面形状はU字状で2層に区分。	埋土が35%残存。壘の中に魚骨、浅黄色細砂が残存。
SK73	(180)	(120)	110	不定形	SK43の南	SK62×	断面形状はU字状で14層に区分。	瓦片出土。廃棄土坑。
SK75	105	40	15	不定形	SE47の西	SE47×	断面形状はU字状で2層に区分、総じて黄灰色シルト。	炭片・焼土を含む。
SK77	174	130	29	隅丸方形	SK35の南	SE20○	SE20を切るプランで断面形状はU字状。	
SK79	115	125	30	楕円形	SE47の南西	SK31× SK64○	不明。	
SK80	105	100	57	円形	石列8	不明	断面形状はU字状。壘の掘方は単層。	埋土。壘内最下層よりハーモニカ出土。
SK81	100	83	62	円形	石列8	不明	断面形状はU字状。壘の掘方は単層。	埋土。
SK82	80	91	63	円形	石列2と3の間	不明	断面形状はU字状。壘の掘方はほとんど隙間がない。	埋土。機木など現代遺物出土。明確な掘方を持たない。
SK83	130	126	40.2	不定形	SK24の西	不明	断面形状は皿状。	礫が充填。
SK85	50	30	72	楕円形	SK25の西	SK25×	断面形状はU字状で単層。	中世耕土を切る。
SK86	50	50	10	円形	SK73の南	なし	断面形状はU字状で単層。	モルタル上に常滑壺底部残存。
SK87	49	50	18	円形	SK73の東	なし	断面形状はU字状で単層。	瓦出土。
SK89	175	(55)	68	半円形	SK32の東	SK32×	断面形状はU字状で2層に区分するが、実質1層が遺構の埋土に相当。	瓦主体に出土。
SK91	(110)	(110)	80	円形	調査区北西 SK107の東	SK220×	断面形状は変形したU字状。ブロック埋土の単層。	瓦片と土管片が出土。廃棄土坑。
SK92	(125)	143	40	楕円形	SK93の南	SK93○	断面形状はU字状で3層に区分。	
SK93	125	110	48	円形	SK94の北西	SK92×	断面形状は変形したU字状で単層。総じてしまっている。	瓦と三和土出土。
SK94	142	120	40	円形	SK105の南	なし	断面形状はU字状で5層に区分。上層は砂質で下層は粘質土。	貝、瓦片の他、「いせ□」等の朱書きされた磁器碗と蓋(図16-32・33)等出土。
SK95	80	55	15	楕円形	SK94の西	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	貝を含むブロック埋土。
SK96	114	93	55	円形	SK97の北東	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦出土。
SK97	136	150	13	円形	SK100の東	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	被熱で赤褐色に硬化。
SK98	160	94	53	楕円形	石列1の西	SK183○	断面形状はU字状で単層。	壘、貝、瓦出土。
SK99	150	101	70	楕円形	西壁内	2-SK59.60○	断面形状はU字状。	2-SK59.60の埋土の一部の可能性あり。
SK100	80	(80)	40	楕円形	西壁内 SK97の西	なし	断面形状はU字状。	貝や瓦出土。廃棄して焼却した際の被熱面あり。
SK102	(300)	(150)	70	不定形	SK183の北	2-SK26○	大半を調査区北、西壁内に残存し詳細は不明。	貝、炭、焙烙細片、陶磁器片多数、瓦出土。廃棄土坑。
SK104	75	70	37	円形	SK106の東	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦片多数出土。
SK105	97	112	17	円形	SK92の東	SK92×	断面形状はU字状。	
SK106	55	70	19	円形	SK107の南	不明	断面形状はU字状で単層。	瓦片が出土。
SK107	204	170	68	楕円形	調査区北西 SK91の西	石列1×	断面形状はU字状で3層に区分。	全層を通じて瓦片が出土。色絵鉢、青磁染付碗、備前焼、堺・明石系播鉢、焙烙(写真14)等が出土。
SK108	(53)	24	23	楕円形	SK109の北	SK109×	断面形状はU字状で2層に区分。	陶器出土。
SK109	250	250	86	隅丸三角形	SK92の西	SK108○	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦出土。
SK110	180	(140)	10	方形	SK107の南東	不明	断面形状はU字状で単層。	床面より下に礫が露出。
SK111	(114)	90	30	楕円形	SK117の南西	SK114×	断面形状はU字状。	
SK114	(300)	(300)	(60)	不定形	SK111の西	SK111○	断面形状はU字状。	礫や瓦片主体で出土。攪乱に切られる。
SK117	157	150	66	円形	SE118の西	SK174×	断面形状は逆台形状で2層に区分。総じて粘質土。	コンクリート片出土。
SE118	(300)	(300)	(150)	円形	SK119の南	SK159○(2面) SK119○	断面形状はU字状。	上層にレンガ多数混入。石組井戸。筒型碗(図14-8)、備前焼播鉢(図14-12)、堺・明石系播鉢(図14-10)、焙烙(図14-9)等が出土。
SK119	(300)	120	(300)	不定形	SE118の北	SE118×	断面形状は不定形で南北に広く、6層に区分し総じて上層は砂質中層以下は粘質土。	炭、焼土、瓦、陶器片出土。江戸中期から幕末の廃棄土坑。攪乱に切られる。豊島石、石製碗、京焼風陶器、焙烙、播鉢(写真16)等出土。

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
SK120	(450)	(300)	80	不定形	SK119の北	不明	断面形状は逆台形状で、9層に区分。	瀬戸美濃系磁器碗、瓦、寛永通宝出土。幕末までの廃棄土坑。
SK121	(55)	50	22	円形	SK117とSE118の間	SK122○	断面形状は逆凸形で3層に区分。	焼土炭が全層に散布。
SK122	(45)	30	11	円形	SK117とSE118の間	SK121×	断面形状はU字状で単層。	
SK123	64	65	26	円形	SK124の北	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦片出土。
SK124	102	88	36	楕円形	SE118の南西側	SK157○ SK159○	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦片出土。
SK125	140	54	10	楕円形	SK127の北	SK126×	断面形状はU字状で単層。	
SK126	(45)	30	36	円形	SK127の北	SK125○	断面形状はU字状で単層。	攪乱の可能性あり。
SK127	155	62	17	隅丸方形	SE118の南	なし	断面形状はU字状で単層	攪乱の可能性あり。
SK128	140	90	35	楕円形	SK129の東	なし	断面形状はU字状で3層に区分。	攪乱の可能性あり。
SK129	86	65	43	楕円形	SK128の西	なし	断面形状はU字状。ブロック埋土の2層に区分。	
SK130	113	50	15	隅丸方形	SK131,129の間	なし	断面形状は皿状で単層。	攪乱の可能性あり。
SK131	83	78	42	楕円形	SK132,130の間	なし	断面形状はU字状で2層に区分。ブロック埋土。	
SK132	35	30	35	円形	SK131の南	なし	断面形状はU字状で2層に区分する柱穴。	柱抜取跡あり。
SK133	52	50	10	円形	SK132に南	なし	断面形状はU字状で単層。	サザエ出土。
SK134	155	120	97	楕円形	SK133の東	SK254×	断面形状はU字状で3層に区分し総じて粘土質で軟らかい。	二枚貝、瓦、磁器片出土。江戸中期から幕末の廃棄土坑。
SK135	80	65	59	楕円形	SK136の西	SK136×	断面形状はU字状。焼土が入るブロック埋土の単層。	
SK136	178	100	76	楕円形	SK134の南	SK135・ 177○	断面形状はU字状で3層に区分し総じて粘土質で軟らかい。	全層を通じて瓦片を混入。磁器碗、最下層より大量のアサリ出土。江戸中期から幕末の廃棄土坑。
SK137	47	45	9	円形	SK136の南	SK136×	断面形状は皿状で単層。	最下層より大量のアサリ出土。
SK138	47	32	14	円形	SK137の西	なし	断面形状は皿状で単層。	
SK142	127.4	121.8	42.5	円形	SK143の西	SK143○	断面形状はU字状。	瓦が充填。
SL143	165	120	57	円形	調査区の南	SK142×	断面形状はU字状。	竈構築材の中に粉々にした瓦が混ざっている。地床炉。砂岩質の石を基礎に粘土で固め袖石を設けた構造で、一部を破壊され袖石などを石列に転用。2基の燃焼室があり、竈口は約60～80cm程と推測。SL144は灰口兼灰掻き出し溝が付属。
SL144	80	100	35	円形	調査区の南	なし	断面形状はU字状。	
SP146	40	40	3	円形	SK177の南	なし	断面形状は薄い皿状で単層。	瓦片出土。
SP147	34	3	6	円形	SK177の南	なし	断面形状は薄い皿状で単層。	炭や焼土の粒を検出。
SK148	43	35	20	円形	SX155の南	なし	断面形状はU字状で単層。	三和土片、瓦片。
SE149	240	230	(250)	不定形	SE118の東	SK199× (2面)	埋土は井筒部分が崩落して裏込めが残存。	SK80,81、石列を構築以前に廃絶した井戸。幕末の陶磁器のほか、青磁染付碗・蓋(図14-13・14)、磁器碗(図14-15)、人形徳利(図14-16)、灯明具(図14-17)、炮烙(図14-18・19)、塀・明石系播鉢(図14-20・21)等が出土。
SK150	60	50	(40)	円形	SE149の南	SK199○(2面) 2-SD19○	断面形状はU字状で埋土はシルト質粘土。	
SP152	36	36	23	円形	SK153と隣接	なし	断面形状はU字状でブロック埋土の単層。	
SP153	52	34	7	円形	石列5の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
SX155	115	110	28	隅丸方形	SK401の南	SK401○	断面形状はU字状。	攪乱の可能性あり。
SK161	205	(105)	20	不定形	SP162の東側	なし	断面形状はU字状。	
SP162	59	59	38	円形	SP262の南東	なし	断面形状はU字状。	柱穴。
SP164	25	23	11	円形	SE118の東側	なし	断面形状はU字状で単層。	
SK167	45	30	40	楕円形	SE118の東	なし	断面形状はU字状で4層に区分。	
SK168	(90)	(46)	18	楕円形	SE149の西	SE149×	断面形状はU字状で3層に区分。	上層には大小の河原石が集積し硬い。青花、陶器片出土。
SK169	10	8	18	円形	SP172の東	なし	断面形状はU字状。	
SK171	19	4	18	円形	SP194の北	なし	断面形状はU字状で単層。	炭粒混入。
SK172	18	16	13	円形	SE118の東	なし	断面形状はU字状で単層。	炭粒混入。
SK173	(230)	45	48	楕円形	西壁際	SK176×	単層。	鉄滓出土。SK240と同一の可能性あり。
SK174	(40)	54	(5)	楕円形	西壁際	SK240○ SK117○	単層。	
SK175	54	(44)	(28.7)	円形	SK114の西	SK176○	不明。	
SK177	70	76	40	円形	SK136の西	SK136×	断面形状はU字状で単層。	炭・焼土粒を含み一度に埋没。
SK180	(145)	(80)	35	方形	SK97の南	SK181○	断面コの字状で単層。	瓦片と炭が多量出土。近世以降の廃棄土坑。
SK181	195	(118～)	30	方形	SK97の南	SK180×	断面コの字状で2層に区分。	全層を通じて二枚貝、瓦片を多く混入。近世以降の廃棄土坑。
SK183	84	95	33	円形	SK98の西	SK98×	断面形状はU字状で単層。	埋土と共に瓦、甕、磁器片出土。
SK192	95	(70)	20	楕円形	SK189の東	なし	断面形状は不定形で単層。	ビニール・コンクリート片が混在。攪乱。
SP194	21	24	17	円形	SP171の南	なし	断面形状はU字状で単層。	炭粒混入。
SK195	17	10	5	円形	SE118の東側	なし	断面形状はU字状。	
SP196	42	36	34	楕円形	SE118の東側	SK195○	断面形状は逆L字状で2層に区分。総じて粘質のブロック埋土。	

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区における位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
SP197	19	18	18	円形	SP200の隣	なし	断面形状はU字状で単層。	土器片出土。
SP198	21	20	15	円形	SX155の西	なし	断面形状はU字状でブロック埋土の単層。	
SK202	140	100	85	円形	SK164の南東	なし	断面形状はU字状で単層。	
SK210	50	55	11	円形	SK87の東	なし	断面形状はU字状で単層。	瓦出土。
SK212	39	20	8	楕円形	SK109の西	SK109×	断面形状はU字状で単層。	
SK213	30	20	6	楕円形	SK109の北	なし	断面形状はU字状で単層。	瓦片出土。
SK216	120	(37)	(70)	楕円形か	SK10の東 道路側溝内	道路側溝○	断面形状は逆台形状で4層に区分。総じてシルト。	スレート瓦出土。道路側溝を切る土坑、道路側溝内精査で検出。
SK217	(50)	(23)	(30)	溝状	SK89の北	道路側溝○	断面形状はU字状で単層。	近世の溝。道路側溝を切る溝状の遺構、道路側溝内精査で検出。
SK220	(100)	(150)	(85)	不定形	調査区北西	SK91○	断面形状はU字状。北壁に切られ2層に区分し、総じてシルトでしまっている。	瓦片出土。廃棄土坑。
SK223	84	85	550	円形	SE20の東	SE20×	断面形状はU字状でブロック埋土。	
SK224	71	(32)	5	楕円形	225の北	SK225×	断面形状はU字状で単層。	
SK225	335	95	95	円形	SK241の東	SK224× SD231×	断面形状はU字状で6層に区分し、上層は粘質で下層は砂質。	瓦、かわらけ、磁器染付片出土。埋土中に礎石がめり込む。
SK227	175	155	55	楕円形	225の南西	なし	断面形状はU字形で単層。	瓦片出土。50%が攪乱で破壊される。
SK228	93	40	41	隅丸方形	SK225の南西	SK229×	断面形状はU字形で単層。	表層に磁器染付片、上位で瓦中位でかわらけと魚骨出土。廃棄土坑。攪乱を受ける。
SK229	64	60	15	円形	SK241の南	SK228○	断面形状はU字形で2層に区分。1層はもろく、2層はしまるブロック埋土。	魚骨・獣骨出土。
SK230	115	67	(110)	楕円形	SK181の東	石列3×	断面形状はU字状で単層。	多数の竈羽口、鉄滓が出土。廃棄土坑。本来は2面の遺構の可能性あり。
SK234	50	50	38	円状	SK235の南西	SK253○	断面U字形で4層に区分、総じて炉材や炭で埋没。	炉壁や瓦が焼土や炭と共に人為的に埋められている。
SK235	45	55	28	円状	SK234の北東	SK253○	断面凸形で上に礫が集積。	炉材を転用。礫を積んでその上に礎石。
SP236	30	22	15	円形	SL143の南	なし	断面U字形で単層。	
SK237	70.6	42.8	(8)	円形	SK134の東	なし	断面形状はU字状。	元々は電。
SK238	63	49	21	溝状	SK241の南	SK228× SK241○	断面形状はU字状で単層。	瓦片出土。
SK239	117	65	36	楕円形	SE20の東	SK57×	断面形状はU字状で単層。	陶器碗出土。SK23と同一の可能性あり。
SK240	273	(62)	(60)	楕円形	SK174の南	SK174×	断面形状は段があるU字形で6層に区分し、上層はシルト、下層は粘質土。	最下層は瓦で構成。廃棄土坑。
SK241	369	95	110	楕円形	SK225の西 石列4の下	SK228×2- K42.43.72.○	断面形状はU字状。	礫が充填。焼継ぎ液で「イセ口」と書いた磁器碗(図16-35)出土。豊島石、水滴、端反碗、堺・明石系播鉢(写真18)等出土。
SK243	101	73.5	15	円形	SK61の東側	なし	断面形状はU字状。	
SK244	49	42.8	8	円形	SK87の南東 SK25の西	なし	断面形状はU字状。	
SL245	150	150	20	不定形	SK136の東 石列6の下	SK234.235. 237×	断面形状は凸形で、炉体周囲は単層。粘質土中に若干の炭や小礫と共に埋没。	瓦を炉の床部として構築。瓦片が炉を覆うように堆積する。
SK246	47	18	43	楕円形	SK82の下	SK82×	断面形状はU字状。	
SK247	307	(88)	35	楕円形	SK69の東	SK69×	断面形状はU字状。	
SK249	(107)	(70)	4	楕円形	調査区南壁沿い	SK251×	断面形状はU字状。	河原石を多く検出。
SK252	40	(20)	19	楕円形	SL143の南	攪乱×	断面は南側が深いU字形。	
SK253	210	146	60	楕円形	SK134の東	SK225○ SK134×	断面形状はU字状で4層に区分、総じて粘質土が堆積。	瓦片、電の残骸、瓦片、不定形の焼土混入。SL245と並ぶ電を破壊し埋めたとみられる。
SX254	27.6	20	3	円形	SK253の北側	なし	断面形状はU字状。	哺乳類の大腿骨出土。両袖に炉壁がある電跡の可能性あり。石列6の下層遺構。
SK256	120	65	16	楕円形	SK241の北側	SK241×	断面形状はU字状で単層。	河原石が多数混入。
SH261	(100)	(110)	(15)	方形に配置	SE149の東	SE149× SK407×	断面形状は方形。	礎石と組み合う方形の博列建物跡。瓦を方形に埋め込んでいる。
SK262	56	40	30	円形	SK227の東	なし	断面形状はU字状。	
SK263	53	48	33	円形	SP263の南側	なし	断面形状はU字状。	
SK266	32	32	12	楕円形	SK127の南西	なし	断面形状はU字状で3層に区分、総じて粘質土が堆積。	細長い河原石が掘方の外側に位置し、その中に瓦片が敷き詰められている。礎石の根石か。
SP267	18	16	3	円形	SK2の南	なし	断面形状はU字状。	
SK269	(140)	80	45	楕円形	SK107の西	不明	断面形状はU字状で北壁に残存する。上層は砂質で下層は粘質。	廃棄土坑。上層に貝、中層以下に焼土、瓦混入。
SK270	不明	不明	不明	不明	北壁内 SK40の近く	SK40○	断面形状はU字状で単層。	番号を赤字で表記した食器(図16-39)等出土。
SK271	(300)	110	(50)	不明	SK120の下	SK120×	断面形状は三角形を呈し、3層に区分。	磁器片出土。SK120掘られる以前の廃棄土坑と推定。
SK300	61	55	22	円形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状で2層に区分し、総じて砂質のブロック埋土。	
SK301	75	67	10	楕円形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状は皿形で単層。	
SK302	78	60	34	楕円形	東側コンクリ梁内	SK307×	断面形状はU字状で3層に区分。総じて粘質で1層が締まり下層は軟らかい。	
SK303	35	34	9	円形	東側コンクリ梁内	SK307○	断面形状はU字状で単層。	

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
SK304	50	40	25	楕円形	東側コンクリ梁内	SK307×	断面形状はU字状で単層。	
SK305	71	66	16	隅丸方形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状で単層。	瓦片出土。
SK307	91	67	43	楕円形	東側コンクリ梁内	SK303・ 304×	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦片出土。
SK311	135	136	36	隅丸方形	東側コンクリ梁内	SK312×	断面形状はU字状で単層でもろい。	瓦と炭で構成。
SK312	155	139	63	楕円形	東側コンクリ梁内	SK311・319×	断面形状はU字状で2層に区分。	最上層にコンクリート瓦混入。廃棄土坑。 「いせや」の朱書きがある染付碗(図16-37)等出土。
SK313	85	72	49	楕円形	東側コンクリ梁内	SK311×	断面形状はU字状で2層に区分。	
SK314	49	43	14	楕円形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状でブロック埋土の単層。	
SK315	85	35	17	円形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状で3層に区分。1層はシルトで2-3層は粘質土だが総じて硬く締まっている。	
SK316	不明	不明	不明	不明	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状。	
SK317	135	(35)	38	楕円形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦出土。
SK319	44	53	10	隅丸方形	東側コンクリ梁内	SK311× SK312○	断面形状は変形U字状で2層に区分。	半分以上を攪乱で破壊。
SK320	88	40	15	楕円形	東側コンクリ梁内	なし	断面形状はU字状で単層。	西側に裏込め空間が広い。
SP322	(30)	(30)	12	円形	調査区南東隅	なし	断面形状はU字状で単層。	
SK400	155	150	90	円形	SK405の西	SK405・406○ SK408× 石列3○	断面形状はU字状で2層に区分。1層中には炭・焼土・瓦が粉砕されて混入し、2層には瓦が充填。	表層に井戸枠転用石が載る。瓦片が堆積。クランクする雨落ち溝(石列3)を破壊。
SK401	200	55	13	楕円形	SK155の北	SX155×	断面形状はU字状で2層に区分。	遺構埋土の上に石列の盛土が載る。
SK402	155	120	82	円形	SK155の西	石列3×	断面形状はU字状。	幕末の陶器、瓦が出土。SK119の一部。検出時1/3を石列3に覆われる。
SK403	130	140	15	不定形	SK404の南 石列8の下	SK81×	断面形状はU字状。	
SK404	96	85	120	隅丸 四辺形	SK405の南 石列8の下	SK405×	断面形状はU字状。	
SK405	(170)	(135)	93	楕円形	SK400の東	SK404○	断面形状はU字状。	礎底部が床に近いレベルで横たわった状態で検出された。
SK406	(200)	(200)	80	楕円形	SK400の北 石列3の下	SK400×	断面形状はU字状で3層に区分し、総じてブロック埋土。	瓦片が多量に堆積。表層に石列3が載る。
SK407	285	(92)	135	楕円形	SE149の西	SH261 ○	断面形状はU字状で9層に区分、総じて粘質土。	焼土、瓦、サザエ出土。廃棄土坑。
石列1	330~	110	30	直線的な 石列	調査区北西端 石列7の西側	SK107○	断面形状は凸形。	近世の遺構の上に盛土して配置。1~2段の石積み。蔵の基礎石の可能性あり。
石列2	500~	(~40)	30	石垣状の 石列	調査区北西端から 東へ7.5mの位置 石列3の東隣	SK43○ SK91○	断面形状は凸形。	調査区北壁内に残存。近世の遺構の上に盛土して配置。西側に面をもつ、最大4段の石積み。
石列3	1000~	(40~ 100)	10~30	石列が並 列し中央 に溝	調査区西側 石列2の西隣	SK119○ SK400×	断面形状は凸形。	近世の遺構の上に盛土して配置。1~3段の石積み。クランクして北進する雨落ち溝か。中堀に排水の可能性あり。石列取り外し時に筒型碗、溝埋土から柿釉の土師皿やガラス片等出土。
石列4	400~	(~50)	20	平面L字形 に集石	調査区中央部 石列2の南側	SK241○	断面形状は凸形。	近世の遺構の上に盛土して配置。1~2段の石積み。
石列5	350	(~50)	10	河原石を 直角に 配置	調査区南西部 石列6の北側	SL144○	断面形状は凸形。	近世の遺構の上に盛土して配置。石列の間には近世の遺物も入る。周辺の炉等も壊して転用している。
石列6	500	(~50)	20	河原石を 直線的に 配置	調査区南西部 石列5の南側	SK142○	断面形状は凸形。	調査区北壁内に残存。近世の遺構の上に盛土して配置。1~2段の石積み。
石列7	500~	30	20~	河原石を 直線的に 配置	調査区北西端より 東へ展開 石列1の西側	なし	断面形状は凸形。	近世の遺構の上に盛土して配置。南側に面をもつ。蔵の基礎石の可能性あり。
石列8	400~	(~40)	20	河原石を 直線的に 配置	調査区中央部 石列2の南側	SK403○ SK404○	断面形状は凸形。	近世の遺構の上に盛土して配置。
道路側溝	(970)	(55)	(35)	溝状	調査区北東端より 南へ伸びる	SK216・217×	断面形状はU字状で埋土中に礫が多く混入。	近世の遺構に切られる。石組みが東へ膨れることから、側溝の拡幅や付け替えが行われた可能性がある。広東碗(図6-1・2)等出土。

第2面

SK33	210	196	120	円形	調査区東側 基礎支柱台座脇	SK24× SK32×	断面形状はU字状で5層に区分。	第1面で検出。総じて全層中に炭や焼土を混入する。元は井戸の可能性あり。
SD59	25	(85)	7	溝状	SE20の北	SK23○ SE20×	断面形状はU字状で単層。	第1面で検出。
SD90	63	(143)	17	溝状	調査区北北東 SE20の北	SE20×	断面形状はU字状。	第1面で検出。
SK159	100	105	156	円形	SK199の西	SK124・128・ 157× SE118○	断面形状はU字状で9層に区分し、総じて上層は砂質、下層は粘質土。	第1面で検出。埋土中に共通して炭が混入。
SK199	355	212	142	楕円形	SK150の西	SE147○	断面形状はコの字状で10層に区分。	第1面で検出。ムシロ痕跡のある精錬廃棄物、鞆羽口が多量に出土。
SE318	(300~)	(300~)	(300~)	楕円形	SP322の北	なし	断面形状は逆凸形で5層以上に区分。5層以下は石組。	第1面で検出。河原石が充填。井筒を抜いて井戸封じをしている可能性あり。

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
2-SP1	29	24	24	円形	2-SP16の南	なし	断面形状はU字状でブロック埋土。	
2-SP2	28	22	19	円形	2-SP16の南	なし	断面形状はU字状。	
2-SX3	53	34	8	楕円形	2-SK5の西	なし	断面形状は不定形。	
2-SK4	51	44	11	楕円形	SK154の東側	なし	断面形状はU字状。	
2-SK5	65	40	18	楕円形	2-SK3の東	なし	断面形状はW字状。	
2-SD6	(985)	45	11	溝状	2-SK21の南側	2-SD7○ 2-SD24×	断面形状はW字状。	
2-SD7	(1540)	(73)	13	溝状	2-SD6の南東	2-SD6×	断面形状はU字状。	
2-SK8	42	35	7	楕円形	2-SD7の西	なし	断面形状はW字状。	
2-SP9	60	45	49	隅丸方形	2-SD6の北側	なし	断面形状はW字状。	
2-SP10	31	25	27	円形	SK159の西	なし	断面形状はU字状で3層に区分。	
2-SP11	40	35	37	円形	SK159の北	なし	不明。	
2-SP12	30	20	3	楕円形	SK199の南西	なし	断面形状はU字状。	
2-SP13	25	18	16	楕円形	2-SK14の北西	なし	断面形状はU字形でブロック埋土。	
2-SK14	47	34	4	円形	2-SP13の南東	なし	断面形状はU字状。削平により薄いブロック埋土。	
2-SD15	(70)	45	(8~16)	溝状	2-SP16の西	2-SD24×	断面形状はU字状でブロック埋土。	
2-SP16	29	24	5	楕円形	2-SD6の南	なし	断面形状はU字状でブロック埋土。	SP264,SK132と共に柱穴列形成か。
2-SP17	(20)	17	7	楕円形	2-SP16の南	2-SK18×	断面形状はU字状でブロック埋土。	
2-SK18	(52)	36	11	楕円形	2-SP16の南	2-SP17○	断面形状はU字状でブロック埋土。	
2-SD19	125	34	10	溝状	SK199の東	SK150×	断面形状はU字状。	
2-SP20	26	19	26	楕円形	SK142の床面	なし	断面形状はU字状。	
2-SK21	50	45	7	円形	2-SD6の北側	なし	断面形状はU字状。	2-SD6北側で上端が不明瞭化。
2-SK22	75	33	5	円形	2-SD6の北側	なし	断面形状は皿状。	
2-SK23	(75)	65	34	不定形	SX273の下面	SX273×	断面形状はU字状。	
2-SD24	645	72	(21)	溝状	調査区西壁沿 2-SD15の西	2-SD6○	断面形状は逆台形状。	
2-SP25	32	31	4	円形	2-SD6の南	なし	断面形状はU字状のブロック埋土。	
2-SK26	183	(113)	40	円形	2-SK31の西	SX102× 2-SK31×	断面形状はU字状で3層に区分。総じて粘質土。	底面に鑿削部が横たわり、備前播鉢は座った状態で検出。
2-SK27	125	118	57	楕円形	2-SK62×	2-SK28○	断面形状はU字状で3層に区分。総じて粘質土。	
2-SK28	(78)	(75)	30	円形	2-SK31の南	2-SK27×	断面形状は逆凸状で3層に区分。総じてブロック埋土。	
2-SK29	80	(128)	34	楕円形	2-SK26の南	2-SK28○	断面形状はU字状で2層に区分。総じて粘質土。	
2-SK30	(190)	183	35	円形	2-SK62の南西	2-SK30,60○ 2-SK78,154×	断面形状はU字状で4層に区分。	瓦、磁器、サザエが焼土や炭を伴って人為的に廃棄。廃棄土坑の底面。
2-SK31	(275)	248	57	楕円形	2-SK26の東	SK269× 2-SK26,28○ 2-SK32×	断面形状はU字状で3層に区分。	瀬戸美濃系磁器染付碗、瓦片出土。廃棄土坑。
2-SK33	130	110	8	円形	2-SK39の南	2-SK46・ 47○	断面形状はU字状で単層。	
2-SE34	90	90	(70)	円形	2-SK35の北寄り	SK230○ 2-SK35○	断面形状は円筒形で2層に区分。	井筒はコンクリート製で、中に砂利が埋積する。近代の井戸。
2-SK35	(510)	(295)	68	楕円形	SE34の南	SK230○ 2-SK92×	断面形状はU字状で6層に区分。	多量の瓦片、土鍋の破片が出土。江戸期の廃棄土坑。
2-SK36	108	(175)	94	円形	2-SK35の東	2-SP85○ 2-SK44○	断面形状はU字状。	瓦と礫が98%占める。
2-SK37	285	(215)	92	円形	2-SK41の北	2-SK38・41× 2-SK57○	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦主体の廃棄土坑。石列2の東で収束。
2-SK38	(213)	170	48	楕円形	2-SK39の東側	2-SK39× 2-SK37○	断面形状はU字状で3層に区分。	最下層に炭が集中。刷毛目唐津、播鉢が出土。廃棄土坑。
2-SK39	153	202	44	楕円形	2-SK38の西側	2-SK38○	断面形状はU字状で5層に区分。	瓦、陶器、焙烙、刷毛目唐津が出土。廃棄土坑。
2-SK40	122	(136)	15	円形	2-SK38の北側	2-SD90○ 2-SK38×	断面形状はU字状。	瓦片出土。廃棄土坑。
2-SK41	(118)	100	35	円形	2-SK37の南側	2-SK37○ 2-SK69・48×	断面形状はU字状で2層に区分。総じてシルト堆積。	瀬戸美濃系磁器碗、瓦が出土。床面で京焼風陶器碗、木の葉形型打ち成形皿が出土。廃棄土坑。
2-SK42	175	187	80	円形	2-SK72の東	SK241×	断面形状はU字状で5層に区分。	最下層に炭が集中。廃棄土坑。
2-SK43	270	(35)	25	楕円形	2-SK45の北側	SK241×	断面形状はU字状で15層に区分。	瓦出土。廃棄土坑。
2-SK44	110	120	53	楕円形	2-SK45の北側	SK241×	断面形状はU字状で4層に区分。	刷毛目唐津、布袋徳利出土。廃棄土坑。
2-SK45	(160)	114	87	楕円形	2-SK44の南	2-SK155○	断面形状はU字状で3層に区分し総じて粘質土。上層に炭片を多く含む。	焙烙片、銅製羅宇、磁器水入れ出土。廃棄土坑。
2-SK46	90	95	23	楕円形	2-SE34の北	2-SK33×	断面形状はU字状でブロック埋土。	
2-SK47	191	101	30	楕円形	2-SK38の北側	2-SK33×	断面形状はU字状で単層。	
2-SK48	166	76	31	楕円形	2-SK47の南	2-SK87○	断面形状はU字状で2層に区分。	2-SK49との間に植物根を伴う砂層を挟む。
2-SK49	74	80	30	円形	2-SK48の西	なし	断面形状はU字状で2層に区分。総じて砂質土。	瓦片出土。2-SK48との間に植物根を伴う砂層を挟む。
2-SK50	(80)	(80)	(75)	円形	SK120の下面	SK119,120×	断面形状はU字状で上層は灰黄褐色砂質シルト。	井戸の可能性あり。
2-SK51	(87)	(60)	48	円形	SK120の下面	SK120○	断面形状はU字状でシルト。	磁器碗出土。廃棄土坑。
2-SK52	131	(56)	23	楕円形	調査区北東	2-SK159×	断面形状はU字状で単層。	SK23・57・239の下で検出。
2-SP53	54	34	8	楕円形	2-SK62の南側	なし	断面形状は逆台形状で単層。	
2-SP54	25	23	8	円形	2-SK62の南側	なし	断面形状はU字状で単層。	

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
2-SK55	67	45	9	楕円形	調査区北西北壁前	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SK56	(230)	124	102	楕円形	SK70の北 北壁際	SK40× SK70○	断面形状はU字状で2層に区分。	磁器碗、播鉢、鉾澤出土。北壁内へ続く。
2-SK57	(145)	120	73	楕円形	2-SK38の東側	SK70○ 2-SK37○	断面形状は逆台形で2層に区分。	SK70と同一遺構。
2-SK58	60	47	6	楕円形	2-SK59の東側	2-SK59×	断面形状は逆台形で2層に区分。総じてブロック埋土。	
2-SK59	69	55	29	楕円形	西壁内	2-SK60○	不明。	明石産陶器、矢羽文肥前系染付、京焼風陶器出土。廃棄土坑。
2-SK60	370	(118)	109	楕円形	西壁内	2-SK59・62×	幾重にも埋められている。	炭、瓦、炉壁混入。廃棄土坑。
2-SK62	(250)	(195)	50	楕円形	2-SK27の南側	2-SK27・30×	断面形状はU字状で2層に区分し、上層はシルト、下層は粘質のブロック埋土。	炭や焼土混入。
2-SP64	52	38	35	円形	2-SP71の東	2-SD90○	断面形状はU字状で単層。	
2-SP65	30	31	7	円形	2-SP66の南西側	2-SD91○	断面形状はU字状で単層。	
2-SP66	40	(40)	17	円形	SE47の西	2-SD89○	断面形状はU字状で単層。	
2-SP68	28	25	31	円形	SK2の下	SK2×	断面形状はU字状で単層。	
2-SK71	62	48	38	楕円形	2-SK42の北東側	なし	断面形状はU字状で単層。	柱穴。
2-SK72	180	(169)	82	楕円形	2-SK36の東	2-SK87○ SK241×	断面形状はU字状で3層に区分。	瓦出土。廃棄土坑。
2-SK73	238	(96)	35	楕円形	SK69の西側	SK69×	断面形状はU字状で2層に区分。	瓦片、磁器片出土。
2-SK74	190	60	53	楕円形	2-SK78の下層	2-SK78○	2段掘りで2層に区分。上層は粘質土で下層は砂質土。	瓦片、円礫出土。2-SK78と同一の可能性あり。
2-SK75	(200)	75	24	楕円形	2-SK76の西 西壁内残存	なし	不明。	廃棄土坑の下層。
2-SK76	(198)	115	26	楕円形	2-SK50の北	SK120×	断面形状はU字状で2層に区分。	三和、瓦、京焼風陶器出土。廃棄土坑。
2-SK77	65	40	35	円形	西壁際 2-SK82の西	2-SK74×	断面形状はU字状で単層。	鞆羽口、京焼風陶器出土。廃棄土坑。
2-SK78	(260)	(260)	(18)	不定形	2-SK30の西	2-SK30×	断面形状はU字状で単層。	炭粒、焼土粒出土。
2-SK79	(124)	(30)	18	楕円形	西壁際 2-SK80の西	2-SK78×	断面形状はU字状。	瓦、焼土出土。廃棄土坑。
2-SK80	78	75	36	楕円形	2-SK77の南	2-SK74×	断面形状はU字状で単層。	炭と瓦片出土。廃棄土坑。
2-SK82	130	75	12	楕円形	2-SK35の下面	2-SK35×	断面形状はU字状で単層。	瓦、くらわんか手の磁器碗出土。廃棄土坑。
2-SP83	25	25	23	円形	2-SK73の南西	なし	断面形状はU字状でブロック埋土の単層。	
2-SP84	30	29	37	円形	2-SP83の西	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP85	29	(15)	10	円形	2-SP84の南	2-SK36×	断面形状はU字状でブロック埋土の単層。	
2-SK86	71	(37)	16	楕円形	2-SK37の西	2-SK37×	断面形状はW字状でブロック埋土の単層。	
2-SK87	(270)	(186)	110	円形	2-SK48,49の南	2-SK36・2- SP88×	断面形状は2段掘りのU字状で9層に区分され、斜方向に堆積。総じて粘質土。	瓦、焙烙、甕片が出土。廃棄土坑。
2-SP88	53	49	12	円形	2-SK87の下	2-SK87○	断面形状はU字状で単層。	
2-SD89	810	90	35	溝状	2-SD90の北	SE20× 2-SP66○	断面形状はU字状で2層に区分。	棧瓦、炭片含む。
2-SD90	(1946)	(62)	33	溝状	2-SD89の南	2-SP64×	断面形状はU字状で2層に区分。上層は粘質土で下層は砂質土。	棧瓦片、河原石、獣骨出土。
2-SD91	38	39	5	溝状	2-SD89の南	SE47×	断面形状皿形で単層の粘質土。	
2-SK92	150	(51)	29	円形	2-SK36の南	2-SK35○	断面形状はU字状で単層。	下位に瓦が詰まる。
2-SP93	38	43	33	円形	2-SK94の南	2-SK94×	断面形状はU字状で3層に区分。	柱抜取痕跡あり。
2-SK94	40	39	23	円形	2-SK35の南	2-SP93○	断面形状はU字状で単層。	炭片を混入。
2-SK95	115	83	30	楕円形	2-SK94の南	2-SK96×	断面形状はU字状で単層。	
2-SP96	34	(31)	29	円形	2-SP95の南	2-SK95○	断面形状はU字状で単層。	
2-SK97	49	(38)	35	円形	2-SK96の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP99	73	35	23	楕円形	2-SP97の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SD102	92	100	40	溝状	2-SD141の北西	2-SD141○	断面形状逆凸形で3層に区分。	中層以下に炭粒を混入。
2-SK103	(206)	(116)	33	円形	2-SK94の西	2-SK94×	断面形状はU字状で3層に区分。	瓦片、焼土、炭の細片混入。
2-SP104	23	22	37	円形	2-SK158の南	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕あり。
2-SP105	20	18	37	不定形	2-SP106の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP106	46	31	45	楕円形	2-SP107の東	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP107	19	18	11	円形	2-SP106の西	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP108	41	30	4	円形	2-SP111の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP109	41	47	41	楕円形	2-SP110の西	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP110	35	27	5	楕円形	2-SP111の西	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP111	35	27	10	楕円形	2-SP110の東	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP112	25	20	4	円形	2-SP113の北東	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP113	16	15	24	円形	2-SP112の南西	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕あり。
2-SP114	30	20	22	円形	2-SP115の南西	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕あり。
2-SP115	12	21	9	楕円形	2-SP114の北東	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SD116	55	(50)	15	溝状	2-SD141の西	2-SK142×	断面形状はU字状で単層の粘土。水性堆積。	
2-SD117	110	60	5	溝状	2-SD16の西	SK7×	断面形状はU字状。	
2-SK119	(78)	(83)	77	楕円形	2-SK142の西	2-SD116○	断面形状はU字状。3層に区分。総じて粘質土。3層は還元された粘質土。	
2-SK120	118	112	34	楕円形	2-SK16の西	なし	断面形状はU字状。5層に区分。総じて粘質土。	

遺構一覧表

遺構名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形状	調査区に おける位置	切り合い関係 (勝○負×)	埋土(断面)の所見	特記事項
2-SK121	87	68	23	楕円形	2-SK120の南	なし	断面形状はU字状で2層に区分。	下層に円礫多数、礫の周囲に砂を認める
2-SP123	20	20	5	円形	2-SP124の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP124	50	36	5	円形	2-SP123の北東	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕径10cm。
2-SP125	27	25	44	円形	2-SP138の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP126	23	17	11	円形	2-SP125の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP127	27	25	12	円形	2-SP126の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP128	29	20	23	円形	2-SP156の東	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕あり。
2-SP129	18	17	12	円形	2-SP156の北東	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP130	22	18	9	円形	2-SP115の南東	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP131	26	22	22	円形	2-SP158の北	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕あり。
2-SP132	15	17	39	円形	2-SP131の北西	なし	断面形状はU字状で単層。	柱痕あり。
2-SP133	39	(30.0)	8	円形	2-SK134の西	2-SK134×	断面形状はU字状で単層。	
2-SK134	65	(25)	35	楕円形	2-SP133の東	2-SP133×	断面形状はU字状で4層に区分。	瓦出土。
2-SD135	80	100	38	不定形	2-SK23の東	2-SP136○ 道路側溝×	断面形状逆台形で4層に区分。	最下層で瓦出土。中世耕土を切り、道路側溝に切られる。
2-SP136	35	20	25	楕円形	2-SD135の下	2-SD135×	断面形状はU字状で単層。	杭跡。
2-SP137	18	18	15	円形	2-SP130の東 東壁際	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP138	36	34	58	円形	SE318の北	なし	断面形状はU字状で単層。	根石あり。
2-SP139	31	26	11	円形	SE318の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP140	21	17	16	円形	2-SP111の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SD141	351	60	28	溝状	2-SD116の東	1-SK25×	断面形状はU字状で単層。	南北方向の溝。
2-SK142	156	110	28	楕円形	2-SD141の南	不明	断面形状はU字状で6層に区分。	炭粒混入。
2-SP146	30	25	18	楕円形	SK33の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP147	45	22	29	円形	SK33の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SD148	(190)	26	10	溝	2-SP149の南	2-SK95×	断面形状はU字状で単層。	
2-SP149	53	40	36	楕円形	2-SP152の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP150	23	23	7	円形	SK317の南	なし	断面形状はU字状で単層。	コンクリート梁の下。
2-SK151	100	82	29	円形	2-SK142の南	なし	断面形状はU字状で2層に区分。埋土は総じてしまっている。	
2-SK152	55	37	30	円形	2-SD135の南東	道路側溝×	断面形状はU字状で単層	
2-SK154	(53)	(38)	33	不定形	2-SK16の西	2-SK30・60○	断面形状はU字状で単層	
2-SK155	80	76	34	楕円形	2-SK45の南	2-SK45×	石を礎石と想定して掘方検出を試みたが不明瞭。	2-SK95と対応する礎石か。
2-SP156	36	33	23	楕円形	SK315の下	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP157	20	(15)	(14)	楕円形	SE318の南東	なし	断面形状はU字状で単層。	東半分がコンクリートの下。
2-SP158	35	32	16	円形	2-SP104の北	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SP159	25	25	18	円形	2-SP104の南	なし	断面形状はU字状で単層。	
2-SK160	25	20	15	楕円形	SK401の下	SX155×	断面形状はU字状で、埋土は単層。	SK401とは別遺構。
2-SP161	22	20	25	円形	2-SK52の南西	なし	断面形状はU字状で単層。	

【引用・参考文献】

大阪市文化財協会 1998 『住友銅吹所跡発掘調査報告』 大阪市文化財協会

『村翁夜話集』 2015 「姫辺雑記」『播磨の地誌 福本勇次著 村翁夜話集』『村翁夜話集』 刊行会

播磨史談会 1919 『姫路市史』 姫路市役所

姫路市史編纂委員会 1988 『姫路市史』 第14巻 別編姫路城 姫路市

姫路市史編纂委員会 1991 『姫路市史』 第3巻 本編 近世 I 姫路市

姫路市立城郭研究室 2014 「30 姫路城図屏風」『姫路城絵図集』 姫路市立城郭研究室

第IV章 総括

今回の調査では、江戸時代前期の生業、店舗の可能性をもつ町屋の様相と姫路城築城以前の土地利用の状況を知る上で重要な成果を得ることができた。以下では、江戸時代以前から幕末までの調査地の変遷を記述し総括する。

江戸時代以前

江戸時代以前の溝はいずれも飾磨郡の条里方向N21° Eに概ね従っている。これらの溝は近接して存在し、掘り込みが浅く遺物の出土量も少ないことから、区画遺構ではなく耕作に伴うものと推測する。このように条里と一致する主軸をもつ遺構は、近年、姫路城城下町跡の東部を中心に複数確認されている。今回の調査例は城下町中央部にあたり、羽柴時代の城下整備がこの近辺に及んでいない可能性が高いことが明らかとなった。

江戸時代

姫路城下町の建設により調査地は、中ノ門筋と西国街道が交差する城下における一等地となった。江戸時代前期には、SK199等で鞆羽口や鉄滓等の鍛冶関連遺物が出土しており、当地で鍛冶活動が行われていたことが判明する。こうした鍛冶関連遺物を出土する遺構は調査区西側に限られる点、またSE318の検出位置から調査区には2軒の町屋があったと推測できる。その後、礎石等の直接的な遺構は確認できなかったが、中世耕土層の残存状況と土坑の配置から、中ノ門筋と西国街道に面して建つ大規模な建物に変更された可能性が指摘できる。当時の様相は、寛保元年(1741)以降とされる「姫路城図屏風」に描かれたものであったのであろう(姫路市立城郭研究室2014)。調査区南部で検出した半地下式竈は、多数の丁稚や女中のための賄用の竈であった可能性があり、大坂等の事例を参考にすれば、大店に伴う遺構と解釈できる(大阪市文化財協会1998)。遺構配置と出土遺物の時期、絵図の表記等を参考にすれば、その成立は遅くとも江戸時代中頃までと考えられる。江戸時代後半には石列等の遺構が確認できるが、焼継ぎされた遺物の分布から引き続き調査区内が一連の敷地であったことが判明する。焼継ぎの土器に記された「角いせや」「いせや」は江戸時代後半の当地の屋号と見られる。大正8年刊行の『姫路市史』には原典は明らかでないが、銘菓玉椿で知られる「伊勢屋は中門筋西側、本町通北側角に在り」との記述があり、それと合致する。同様に2-SK35から出土した「菊屋」の文字は、江戸時代中頃の屋号である可能性がある。第II章で確認した「町絵図」に記された所有者と検出遺構との関連は今後の課題であるが、少なくとも敷地境と考えられる石列2が構築される幕末までは、大店として維持された可能性が高い。それ以降、敷地は再び東西に分割されている。

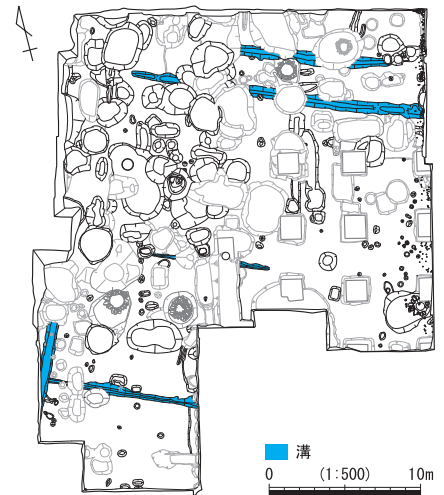


図28 江戸時代以前の遺構配置

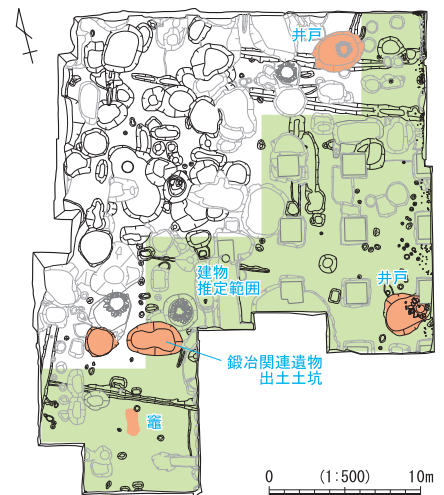


図29 江戸時代前期の遺構配置



図30 江戸時代後期の遺構配置

報告書抄録

ふりがな	ひめじじょうじょうかまちあと							
書名	姫路城城下町跡							
副書名	姫路城跡第437次発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第117集							
編著者名	奥山 貴・中川 猛							
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター							
所在地	〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1 TEL (079) 252-3950							
発行年月日	令和4年(2022年)3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
ひめじじょうじょうかまちあと 姫路城城下町跡	ひょうごけんひめじし 兵庫県姫路市 ほんまち 本町230番の一 部、231番	28201	020169	34° 49′ 58″	134° 43′ 37″	2020.4.20 ～ 2020.8.8	615m ²	開発 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		遺跡調査番号	
姫路城城下町跡	集落跡	中世 近世	溝 敷地境、半地下式竈、 博列建物、井戸、土坑		須恵器、土師器 陶磁器、瓦、鍛冶関連 遺物		20200035	
要約	姫路城の南正面に立地する町屋の一面を調査した。その結果、江戸時代以前の耕作溝を検出し、城下町成立以前には当該地に飾磨郡条里に沿った耕地が広がっていた可能性が高まった。江戸時代前期には、東西2軒の町屋が存在したことが推測でき、そのうち西側では鍛冶活動の痕跡を確認した。江戸時代中頃までには東西の敷地が統合されて大店が成立した可能性が高く、その屋号をしめす遺物も出土した。大店は幕末以降まで存在し、その後再び屋敷地が東西に分割されたことが判明した。							

姫路市埋蔵文化財センター調査報告第117集

姫路城城下町跡

—第437次発掘調査報告書—

令和4年(2022年)3月31日発行

編集 姫路市埋蔵文化財センター
〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL (079) 252-3950

発行 姫路市教育委員会
〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

印刷・製本 株式会社デイリー印刷
〒671-0218 兵庫県姫路市飾東町庄57-2